

14.6/8-96



•1200600863301•

昭和十一年統計年報

第一區府縣立全生病院

4905

始



院 歌

あしたに あふく ふじあや
ゆふべに はゆちちぶのね
そらより ひろきむさしの
なかにわれらのすまのあり

一

あしたに仰ぐ不二の山
ゆふべに映ゆる秩父の嶺
空より廣き武蔵野の
中に我等のすまあり

二

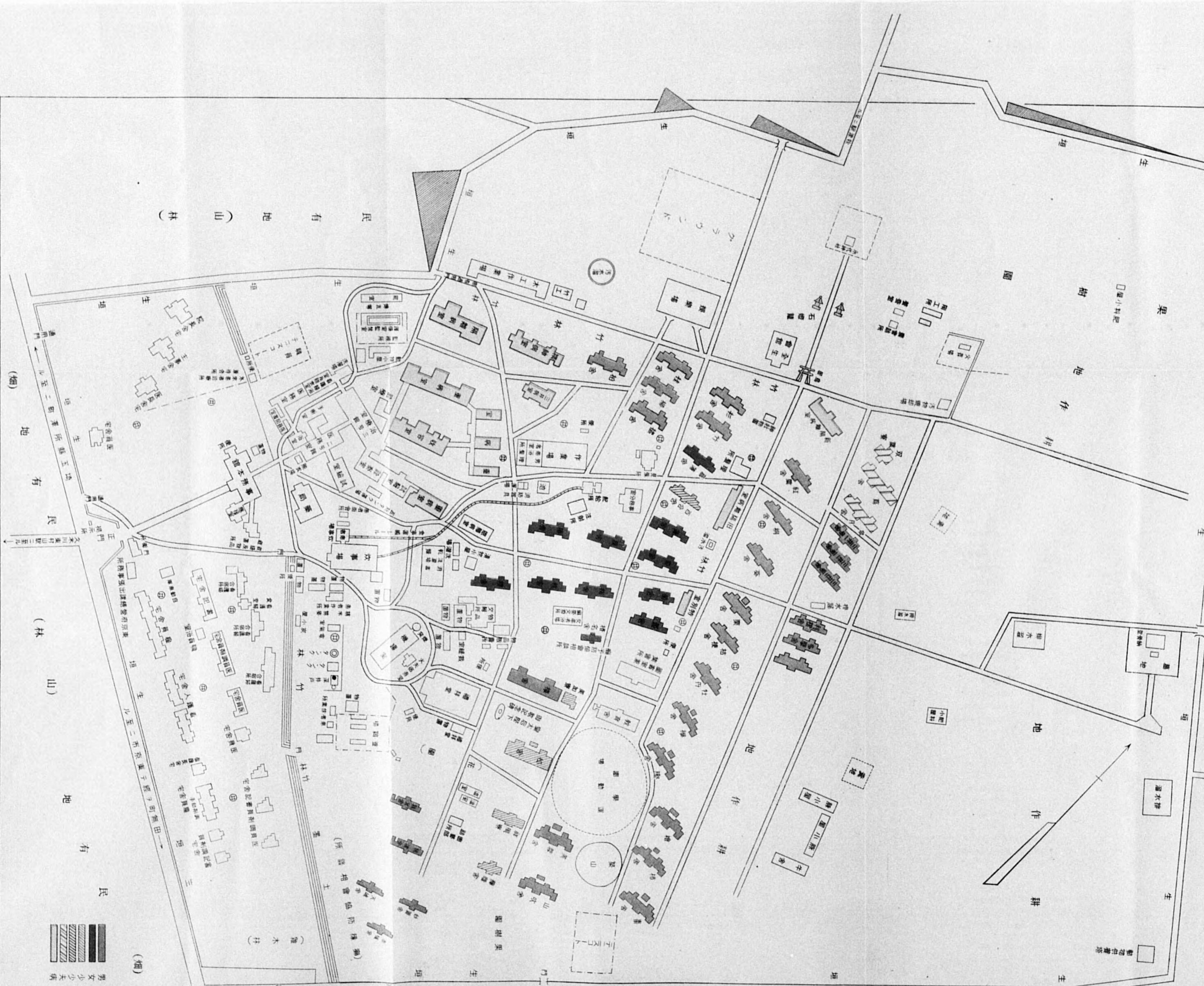
恵も深き聖代に
もとのをまきて幾星霜
歴史を語り松風に
ふくいん高くつとふらん

三

その名を聞けや全生の
住ふ村人とこしへに
こゝろの望抱きつゝ
共にたのしく集いなん



第一區府立縣立全生醫院村山多摩郡東京府
 總棟數九百九十九百二十九坪
 總棟數八百四十四坪
 建築坪數六百七拾八匁參才



露光量違いの為重複撮影

5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 8

村山村東部摩多北竹京東
之字(下流) 圖略院病生全立縣府區一第

其九千三百九十九方九數 坪總
地四拾八百數 坪
本卷九百六十七坪 參拾六百十五數坪 寫建



東京府北多摩郡東山村 第一區府立衛生院略圖 (貳千分之一)

總棟數 九萬九千九百九十二坪
 總坪數 六百八拾四棟
 建物坪數 六百七拾八坪八分



露光量違いの為重複撮影

宿舍舎舎至
 年女婦
 男女少少大棟



(細)

民有地 (細)

民有地 (山林)

民有地 (山林)

民有地 (細)

民有地 (山林)

民有地 (山林)

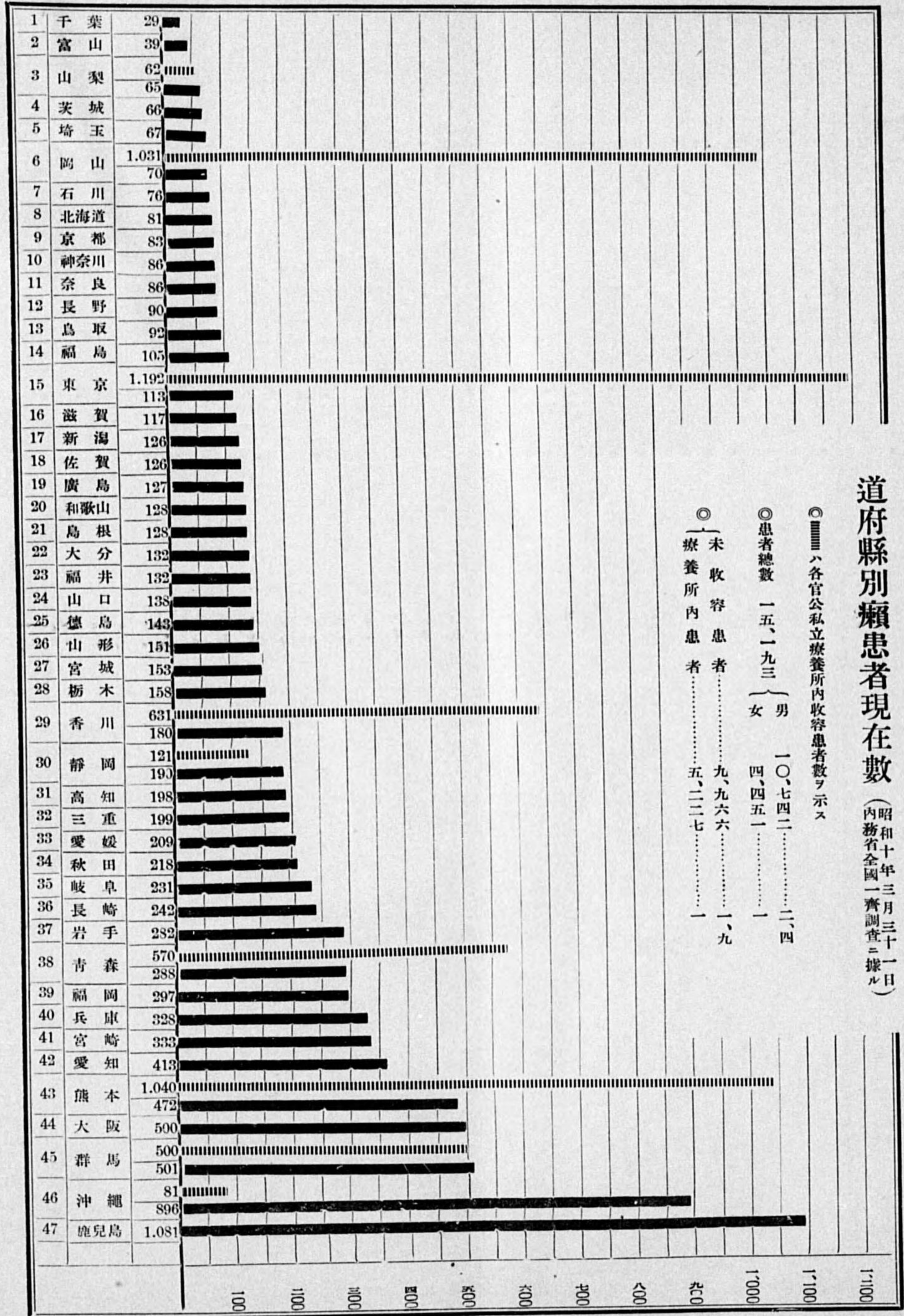
露光量違いの為重複撮影

村山村東部摩多北府京東
第一區府立衛生院略圖

比例尺 1:10,000
測量年 昭和八年
測量者 衛生院

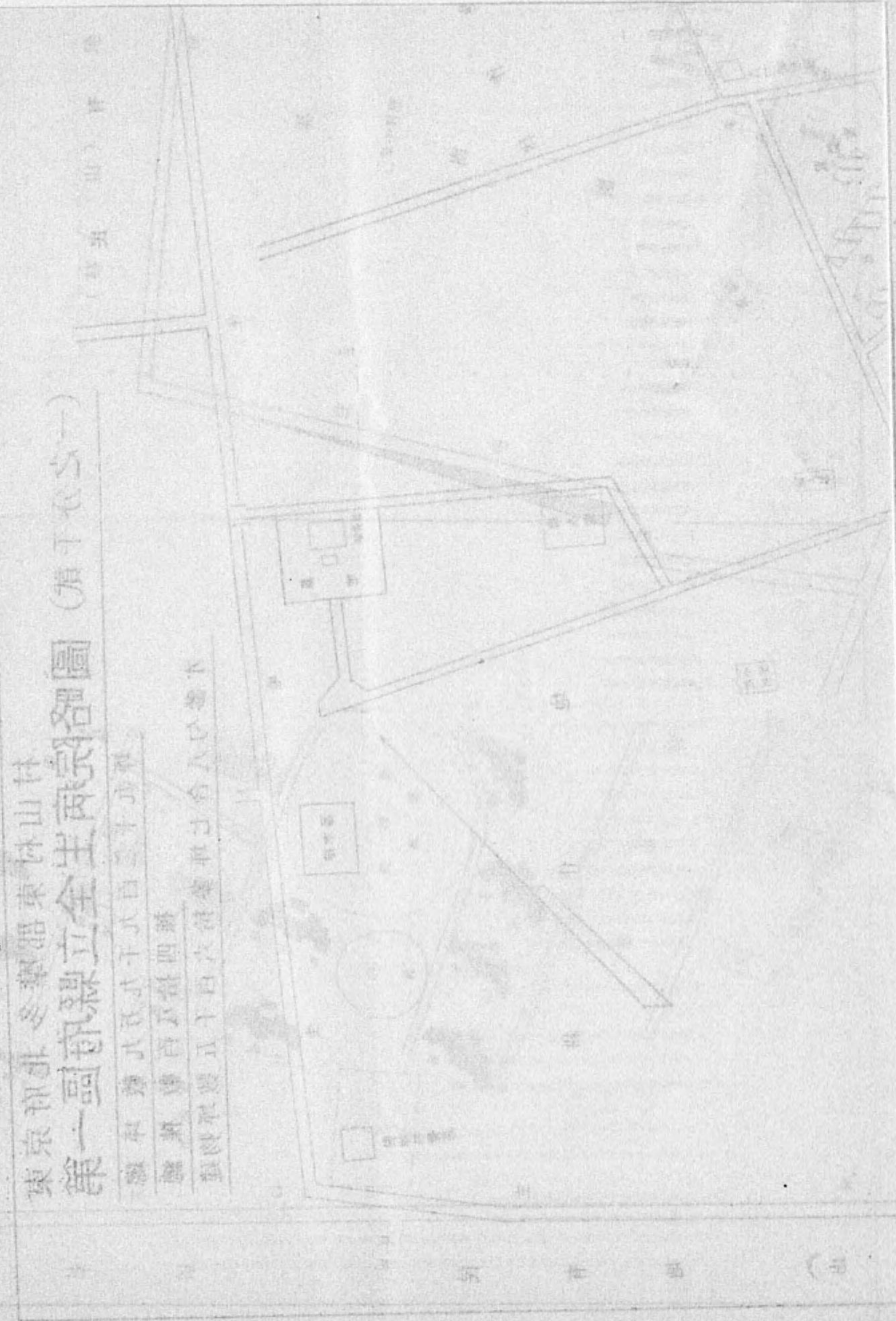


1:10,000
測量年 昭和八年
測量者 衛生院



道府縣別癩患者現在數 (昭和十年三月三十一日 内務省全國一斉調査ニ據ル)

○ 患者總數 一五、一九三
 女 一〇、七四二
 男 四、四五一
 ○ 未收容患者 一、九
 九、九六六
 五、二二七
 ○ 療養所内患者 一、九



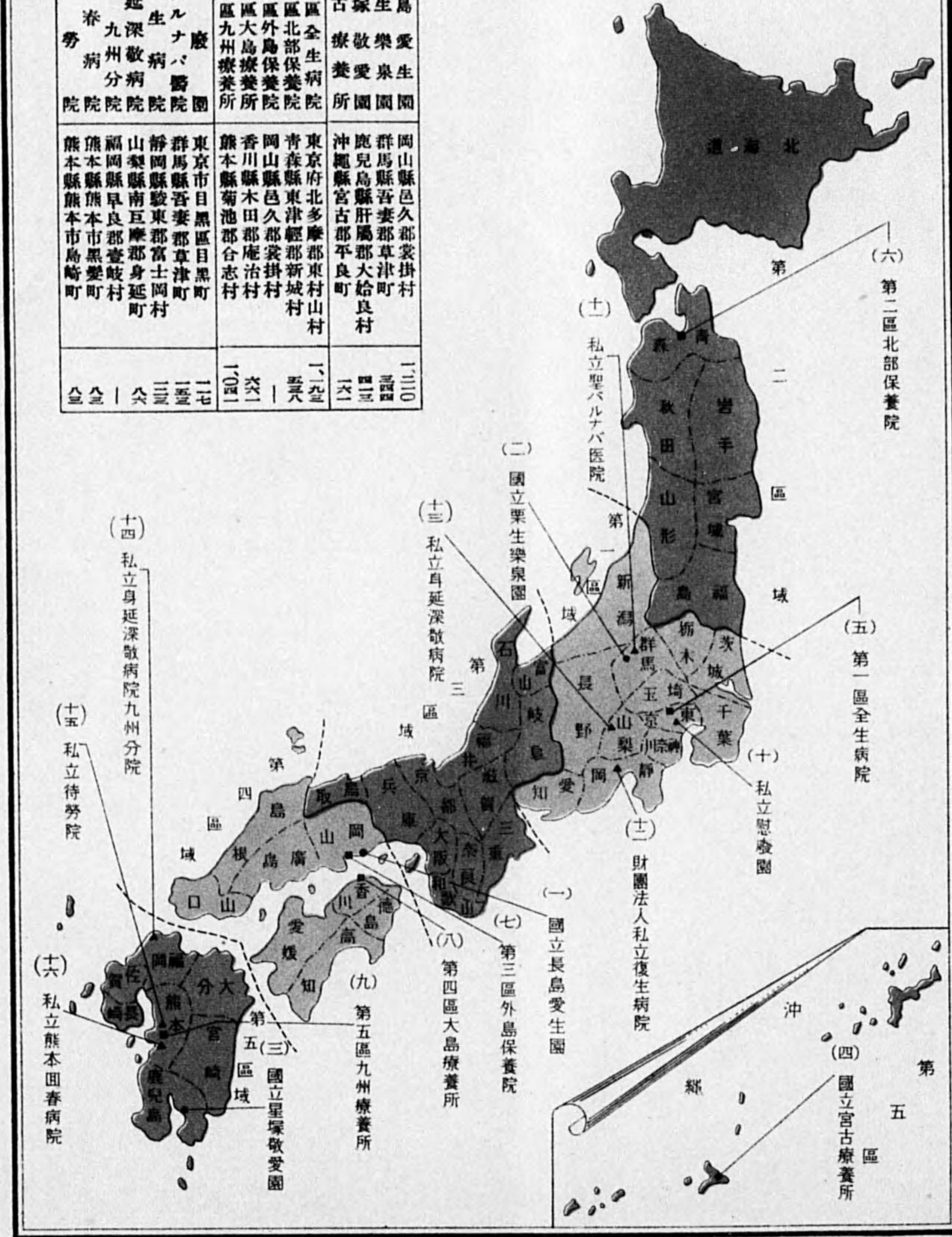
東京市立第一野方病院 (野方) 第一野方病院

昭和十年三月三十一日現在
 野方病院 (野方) 第一野方病院

癩患者療養所設置區域並官立私立療養所分布圖

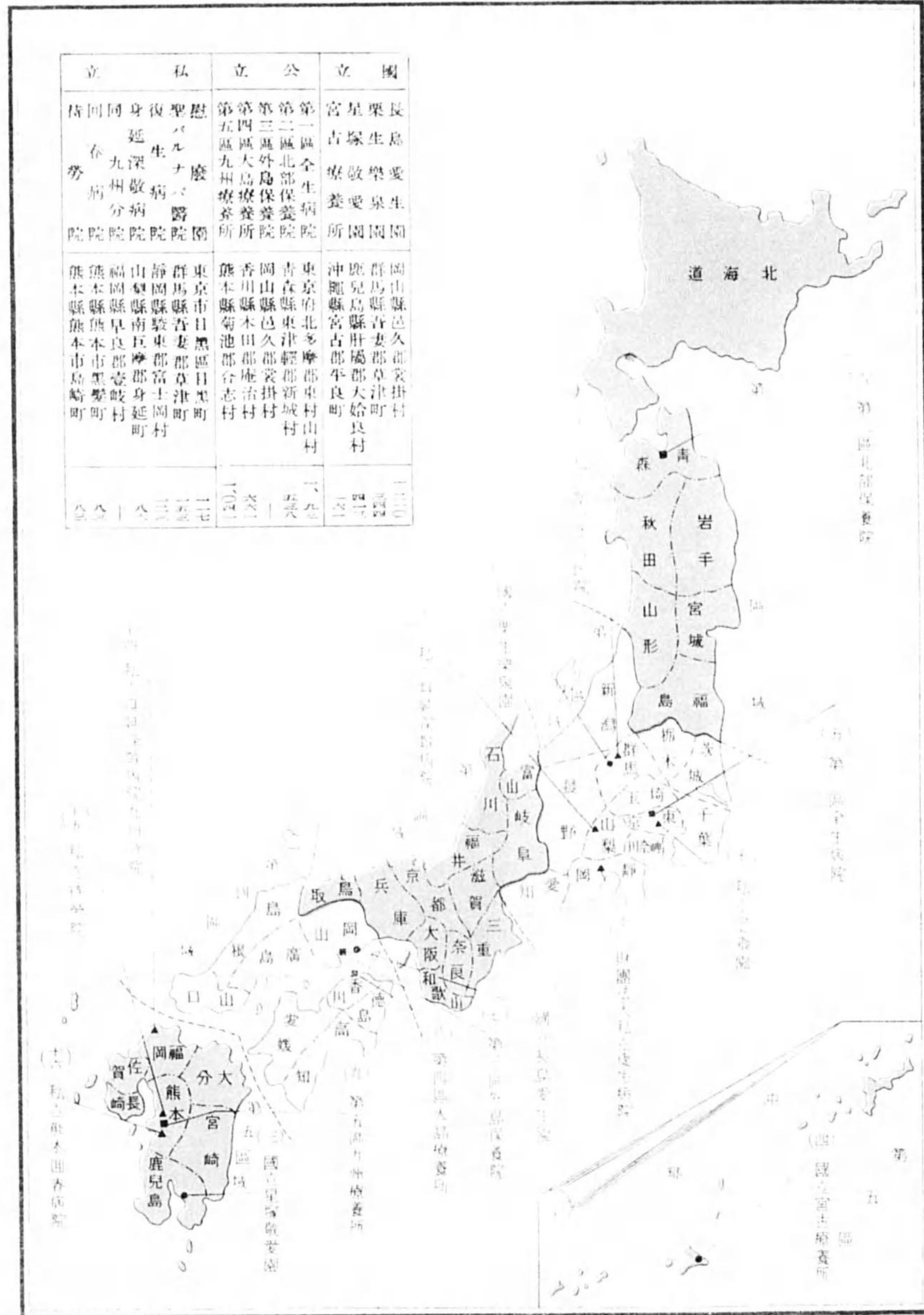
昭和十一年十二月末現在

立 國	立 公	立 私
長島愛生園 栗生泉園 星塚敬愛園 宮古療養所	第一區全生病院 第二區北島保養院 第三區外島保養院 第四區大島療養所 第五區九州療養所	癩病醫院 聖ナルバ醫院 復生院 身延深敬病院 同濟分醫院 待回病院
岡山縣色久郡栗掛村 群馬縣吾妻郡草津町 鹿兒島縣肝屬郡大給良村 沖繩縣宮古郡平良町	東京府北多摩郡東山村 青森縣東津輕郡新城市 岡山縣色久郡栗掛村 香川縣木田郡庵治村 熊本縣菊池郡台志村	群馬縣吾妻郡草津町 群馬縣吾妻郡高崎町 群馬縣吾妻郡富田町 群馬縣吾妻郡高崎町 群馬縣吾妻郡高崎町 群馬縣吾妻郡高崎町
1,100	1,200	1,300



癩患者療養所設置區域並官立私立療養所分布圖

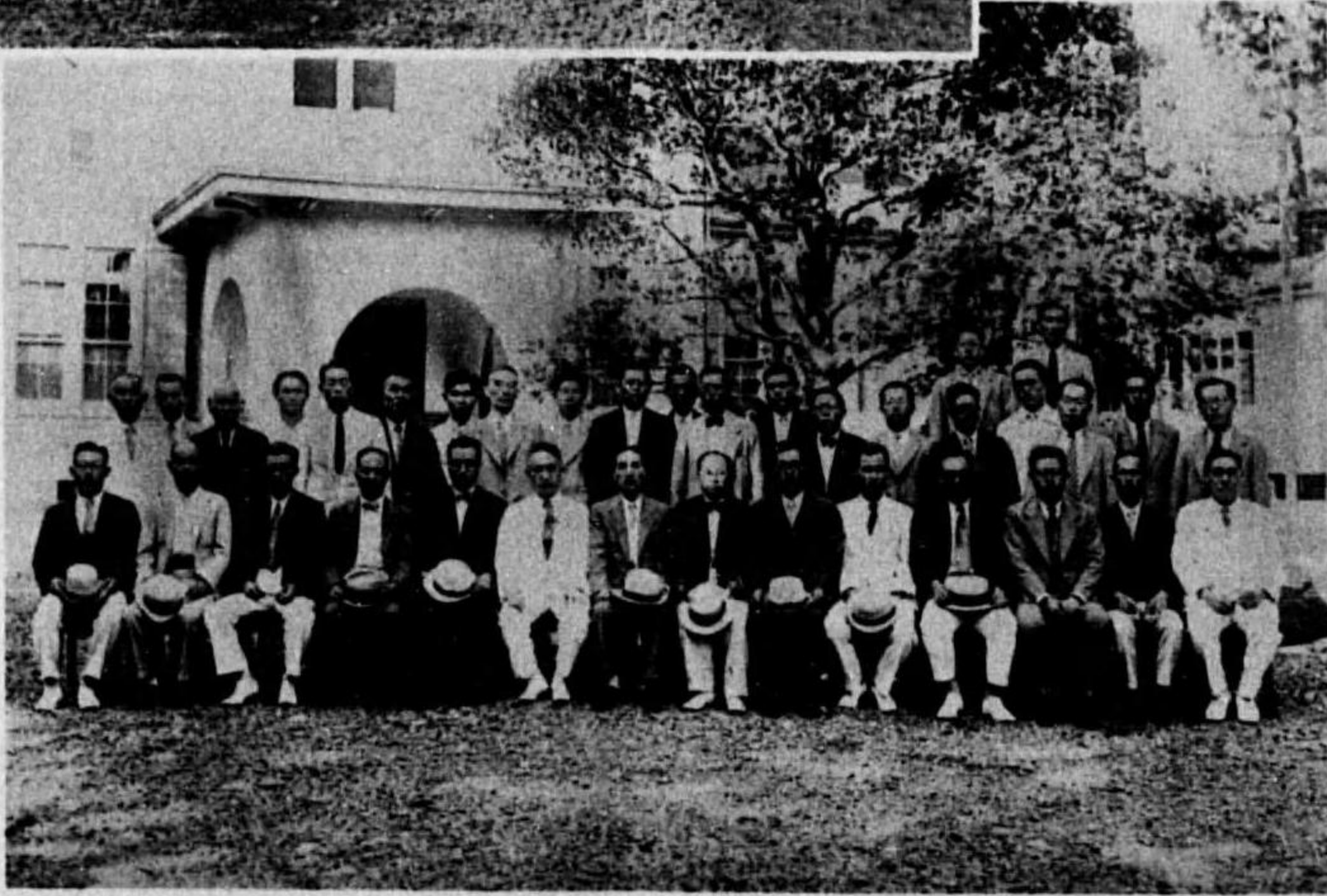
昭和十一年一月現在



全
景



永代神社石燈籠竣工



豫算協議會出席
各聯合府縣衛生課長一行

舊帝室博物館事務所



同上移築ノ本院全生會館



炊事場



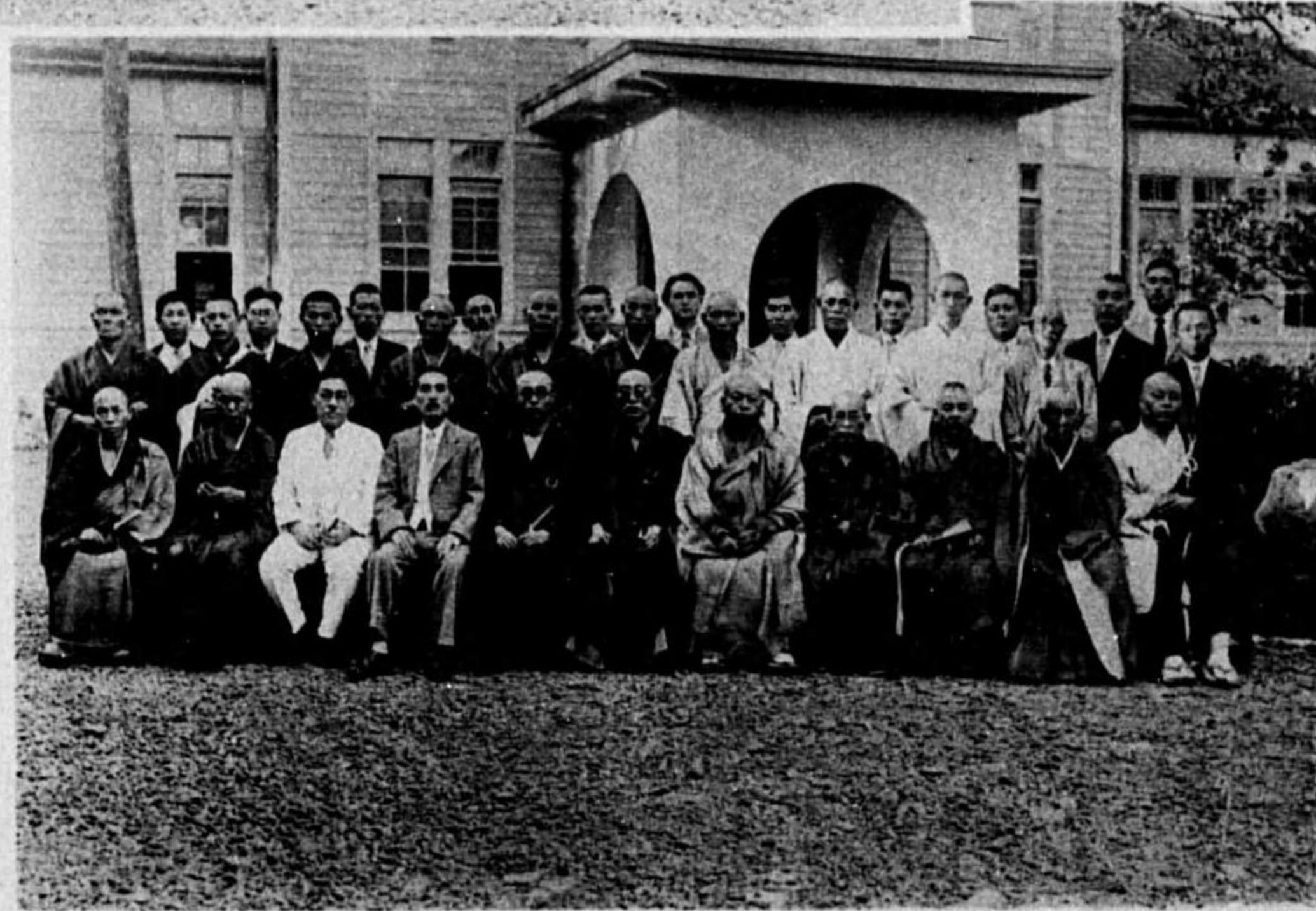
全生圖書館（患者作業ニ依リ竣工）



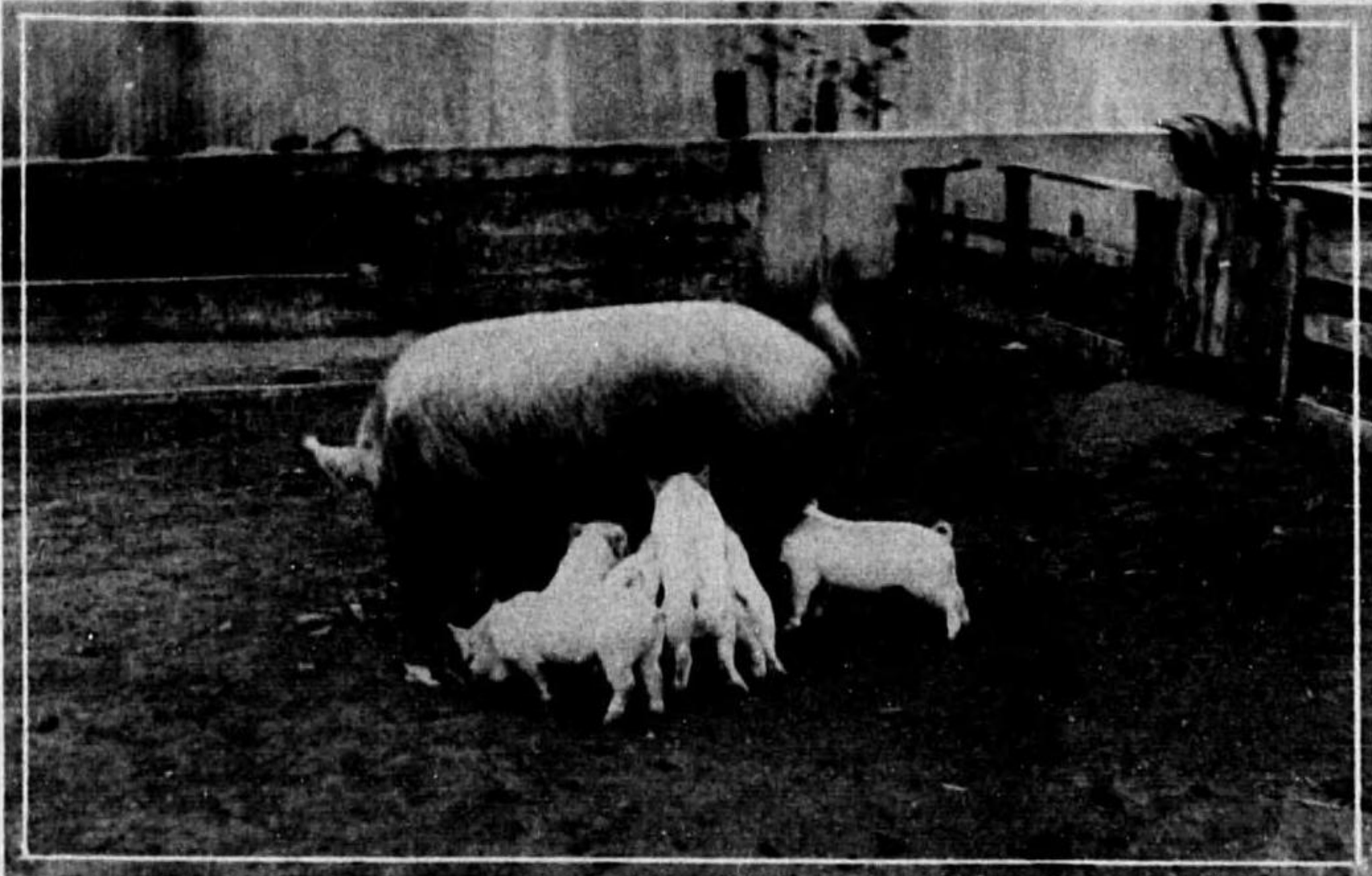
三浦環女史一行來院



大施餼會（曹洞宗務院教學部長
谷口虎山師並北多摩佛教聯合會員）



光の鶏舎ト養鶏

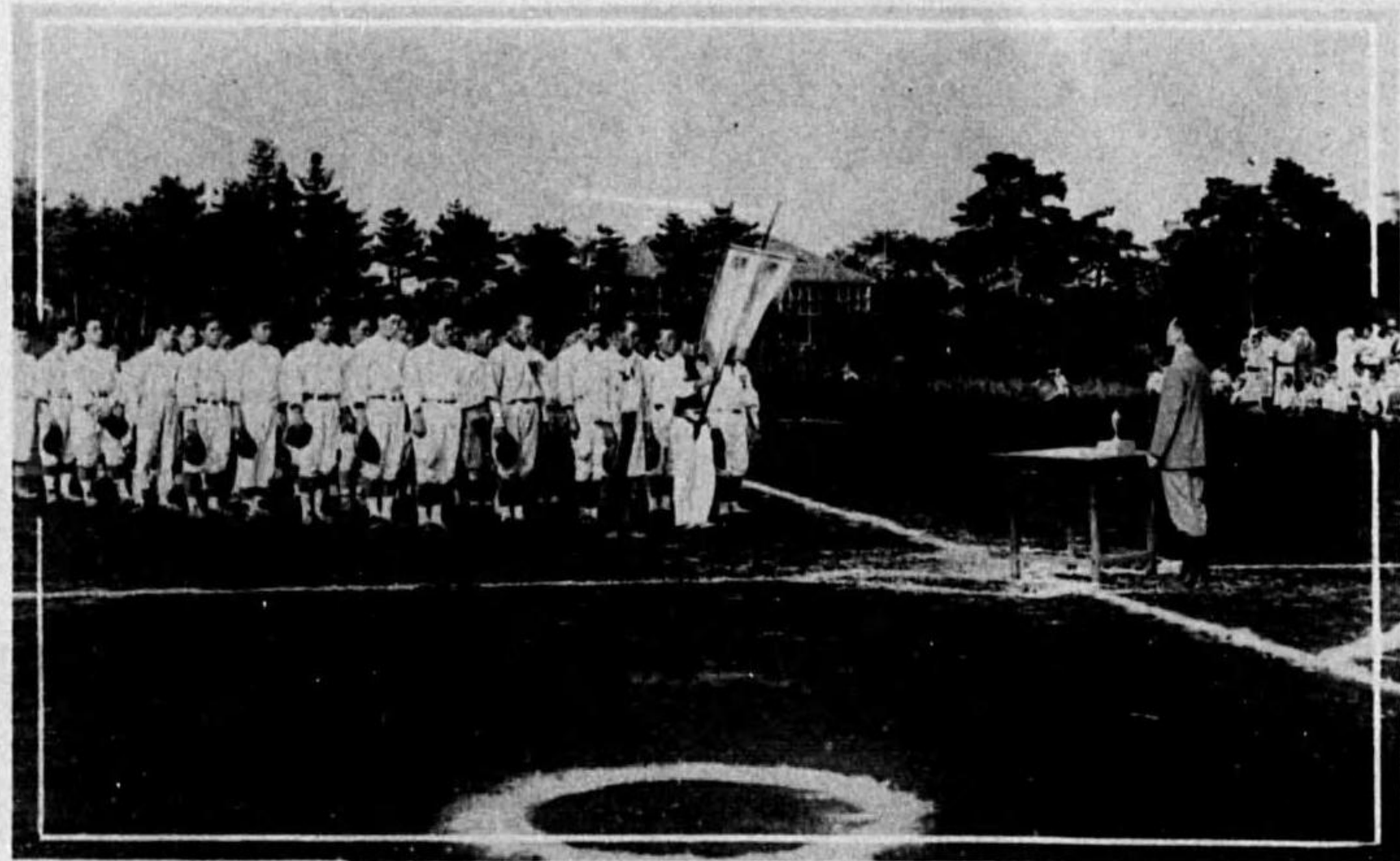


養豚

養牛



輕症患者ノ農耕



娛
樂(野球)



娛
樂(患者之居)

治療 一年四ヶ月



治療前



治療 二ヶ年



治療前



治療 三ヶ年



治療前



目次

第一 沿革	一
職員異動表	二五
第二 概況	二九
一 敷地	三〇
二 建物	三〇
三 職員	三六
四 收容患者定員及現在數	三八
五 本年中ニ於ケル重要事項	三八
第三 總經費	四四
一 豫算	四四
二 決算	四六
三 患者一人當經費	四八
第四 治療	四九
第五 患者ノ狀態	五三
一 衣食	五四
二 慰安及娛樂	五八

三	風紀	六〇
四	教育	六〇
五	作業	六二
第六	統計	六三
一	收容患者異動表	六三
二	現在患者本籍地別表	六五
三	現在患者發病年齡別表	六六
四	患者發病ノ時ヨリ療養所入所迄ニ至ル經過年數別表	六八
五	現在患者病型年齡別表	六九
六	死亡患者病型年齡別表	七二
七	死亡患者病名年齡別表	七三
八	發病以來死亡迄ノ經過年數別表	七六
九	現在患者發病當時ノ職業別表	七六
一〇	現在患者前科者調	七九
第七	財團法人瀨豫防協會患者相談所狀況	七九
第八	一時救護所概況	八〇
附一	院內社會事業團體	
二	關係法令	

第一區府縣立全生病院年報

第一 沿革

開院當初

一 本院ハ明治四十年法律第十一號ニ基キ同年內務省令第二十號ヲ以テ東京府、神奈川縣、新潟縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、愛知縣、靜岡縣、山梨縣、長野縣ノ一府十一縣ヲ聯合區域ト定メ創設シタルモノニシテ時ノ東京府知事阿部浩ハ療養所所在地ノ故ヲ以テ本院管理知事トシテ明治四十年十月創設費豫算ヲ編成シ聯合府縣ノ各代表者ト會合シテ費用ノ支出分擔方法ヲ議定シタルモ豫防法實施期日改正ノ結果遂ニ實行ヲ見ル能ハサリシヲ以テ明治四十一年三月更ニ之ヲ議定スルニ至レリ

明治四十二年

一 越エテ明治四十二年二月ニ至リ東京市ヲ距ル西方八里十五町所澤町ヲ離ル、東南方約一里田無街道ニ沿ヘル東京府北多摩郡東村山村大字南秋津字開發地内ナル林野三萬七百八坪ヲ敷地ニ選定シ同年四月工ヲ起シ建築ニ著手セリ同月東京府屬大野德太郎ハ本院長事務取扱ヲ命セラレ次テ各醫員、調劑員、書記等ノ任命アリ同年九月光田健輔ハ本院醫長ヲ命セラレタリ

一 同年九月設備セシ建物左ノ如シ

- 一 一號館事務所 一棟 六十八坪五合
- 二 二號館治療所 一棟 三十坪
- 三 三號館(治療所) 一棟 五十四坪
- 試驗室 一棟 十八坪
- 患者住宅 十一棟 四百八十六坪七合五勺
- 普通病室 一棟 五十坪五合
- 隔離病室 一棟 二十七坪五合
- 屍室(解剖室) 一棟 八坪
- 禮拜堂 一棟 七十二坪
- 浴場(帶交換) 一棟 二十五坪
- 蒸氣機關室(洗濯場) 一棟 三十坪
- 炊事場 一棟 四十二坪
- 職員舍宅 五棟 二百四十四坪七合五勺
- 物置 二棟 十五坪
- 門衛所 一棟 十三坪七合五勺
- 職員浴室 一棟 五坪
- 汚物燒却場 一棟 三坪

一 明治四十二年九月二十八日諸般ノ準備略ホ整理ヲ告ケタルヲ以テ開院式ヲ舉行セリ然レトモ其ノ設備未タ全クカラサルヲ以テ一時東京府荏原郡目黒村私立慰廢園ノ一部ヲ借リテ假收容所ニ充テ其ノ間ノ事務ハ東京府廳内ニ於テ處辨セラレタリ越エテ十月十八日ニ至リ始メテ本院内ニ於テ事務ヲ開始シ收容患者ヲ移スト同時ニ聯合各府縣ノ送致ニ係ル患者ヲ順次收容スルニ至レリ

明治四十三年

一 三月大野東京府屬ハ院長事務取扱ヲ解カル、ト同時ニ休職千葉縣市原郡長池内才次郎本院長ヲ命セラレ同年六月院長專務トナレリ

- 一 明治四十三年勅令第三百四十六號癩療養所職員制發布ニ依リ同年十月池内才次郎ハ療養所長ニ任セララル、ト同時ニ本院長ニ光田健輔ハ療養所醫長ニ任セララル、ト同時ニ本院醫長ヲ命セラレ其ノ他醫員調劑員書記何レモ任命セラレタリ
- 一 同年度中ニ於ケル補充設備ノ箇所左ノ如シ
 - 患者作業場兼娛樂所 一棟 八十坪
 - 特別室 一棟 十六坪二合五勺
 - 裁縫所兼物品藏置所 一棟 二十五坪
 - 通用門駐在所 一棟 一坪七合五勺
 - 看護人寄宿所 二棟 三十一坪
 - 浴場ノ増築 二ヶ所 十坪
 - 機關手及雇員住宅 一棟 六十坪
 - 隔離病室看護人控所及浴場 二棟 七坪
 - 藥庫及器具消毒室 一棟 二十坪
 - 患者共同便所 一棟 一坪
 - 手術室 一棟 九坪
 - 看護人駐在所 一棟 七坪七合五勺

明治四十四年

一 本年中ニ於テ補充セシ建物ハ
 火葬場 一箇所
 此ノ敷地百五十坪 建坪十二坪ナリ

一 明治四十五年度ヨリ患者百五十人増員ノ計畫ヲ立テ増員ニ對スル建築費及救護ニ要スル一切ノ經費豫算ヲ計上シ聯合各府縣協議會ニ提出シタル結果差當リ現在ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シ
 明治四十五年四月ヨリ之ヲ實行スルコト、ナレリ

大正二年

一 本年ニ於テ補充設備セシ建造物ハ左ノ如シ

普通病室	一棟	四十坪
物品交附所兼物品藏置所	一棟	十坪
洗濯仕上ケ所兼乾燥室	一棟	十坪

大正三年

一 二月十九日院長池内才次郎ハ願ニ依リ本職ヲ免セラレ同日醫長光田健輔ハ療養所長ニ補セラレ同時ニ本院長ヲ命セラレタリ

大正四年

一 本年度ニ於テハ從來ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シテ四百人トナスコト、ナリタリ然ルニ大正四年八月ノ豫算協議會ニ於テ聯合各府縣當事者ハ御即位ノ大典ニ際シ尙ホ市内各所ニ癩患者ノ浮浪スル者アラムコトヲ慮リ遺憾ナク收容スヘキ決議ヲナシタリ然レドモ如何セン今年度増員ノ爲メ已ニ病舎ノ狹隘ヲ告ケ居ル際ナルヲ以テ十月中ニ四十二坪五合ノ一棟ヲ増設スルノ已ムナキニ至リタルヲ以テ急キ工事ニ著手シ十月末ニ落成セリ依ツテ十一月ノ御大典ノ際ニハ四百二十餘人ヲ收容シ得ルコト、ナリ同年十二月一日ニハ其ノ收容數實ニ四百二十四人ヲ算セリ

同年度設備セシ建築物寢具被服日用器具ノ他ニ炊事場ノ改善ヲ施シ從來ノ薪炭ヲ廢シ鈴木式蒸汽炊事竈六箇ヲ裝置シ床面ノ「コンクリート」ヲ撤シテ花崗石トナシ尙一坪五合ノ増築ヲナシタルニ清潔ニシテ且ツ經濟的ナルノミナラス尙將來ニ向ツテ多少ノ餘裕ヲ存スルヲ得タリ

其ノ他豚小屋五坪ノ増設生垣二百間ノ新設ヲナセリ

一 本院ニ於テハ從來職員退職給與金支給ノ規定ナカリシヲ以テ聯合府縣ノ協議ヲ經テ大正四年度ヨリ施行スルコト、ナレリ

大正六年

一 本年度ニ於テハ從來收容定員四百人ノ外更ニ患者百人増員ノ豫算可決セルヲ以テ増員ニ必要ナル諸建物ノ建築ニ著手シ同年十二月迄ニ左記建物ノ落成ヲ見タリ

患者住宅	三棟	百三十二坪	普通病室	一棟	四十坪
寢具被服物置	一棟	十坪			
更ニ引續キ					
醫員調劑員舎宅	一棟	三十三坪	看護人舎宅	一棟	二十九坪五合
看護人寄宿舎増築 <small>(在來ノ建物ニ建テ續キ)</small>	六坪				

ノ諸建物落成ヲ見タリ
尙此外汽罐室ヲ増築シ蒸汽機關一臺ヲ据付クヘキ豫定ノ處物價騰貴ニ伴ヒ既定豫算ニテハ建築及機關ヲ購入スルコト能ハサルニ依リ止ムナク機關室増築ハ大正七年度ニ延期シ機關一臺ノミヲ購入シタリ

大正七年

- 一 本年度ニ於テ落成シタル建物左ノ如シ
 - 汽罐室 一棟 十二坪 消毒用機關室増築(在來ノ建物ニ建テノ繼キ) 九坪
 - 豚小屋 一棟 五坪五合五勺 炊事場物置 一棟 十坪
 - 醫務室 一棟 二十一坪 醫務室附屬渡廊下 五坪
- 一大正八年度ニ於テハ三號館治療室ノ模様替ヲ爲シタル外特記スヘキ事項ナシ

大正十年

- 一 本年度ニ落成シタル建物左ノ如シ
 - 製藥消毒兼試驗室 一棟 十六坪
 - 脫衣所 一棟 五坪
 - 物品交附所 一棟 三坪七合五勺

大正十一年

一 本年度ヨリ患者百人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十年九月上旬聯合各府縣當事者ハ東京府廳ニ會合シ十年度追加豫算建築費拾八萬千四百四圓初度調辨費金壹萬貳千貳百五拾貳圓九拾五錢ヲ可決セリ依テ先ツ以テ敷地ヲ擴張センカ爲メ現在敷地ニ接續セル東南方山林及畑地二萬三百五十三坪ヲ同年十二月買收セリ然レトモ建築工事ハ時日僅少ナリシカ爲メニ同年度内ニ著手スルノ運ヒニ至ラサリキ

大正十二年

一 院長光田健輔ハ内務省ヨリ臨時衛生局事務ヲ囑託セラレ大正十二年七月佛國ニ於テ開催ノ萬國癩會議ニ本邦代表者トシテ出席ヲ命セラレ且東京府ヨリハ佛國へ出張ノ序ヲ以テ歐米各國ニ於ケル癩豫防事務視察ヲ命セラレ同年六月六日渡歐ニ付同月四日院長不在中東京府庶務課長理事官土岐銀次郎ハ院長事務取扱ヲ命セラレタリ

一 本年度ヨリ患者百五十人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十一年九月聯合府縣當事者東京府廳ニ會合シ十一年度追加豫算建築費八萬參千五百六拾貳圓五拾錢初度調辨費貳萬貳千圓ヲ可決セリ然レトモ建築工事ハ前年度ヨリ繰越工事多ク且時日僅少ナリシヲ以テ同年度内著手ノ運ヒニ至ラスシテ大部分十二年度ニ繰越シタリ尙患者百五十人増員ニ伴ヒ敷地ノ狹隘ヲ感セルヲ以テ十二年三月現在敷地ニ接續セル東方山林四千六百六十四坪ヲ買收セリ

一 大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東地方ニ起リタル大震災ノ爲メニ本院ノ蒙リタル被害左ノ如シ

一號館(事務所)二三號館(治療所)ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落甚タシ
 藥庫及器具消毒室(藥室)ヨリ發火シタルモ直ニ消シ止メタリ原因ハ貯藏藥品ノ顛覆破壞シタル
 ニ由ル
 收容患者ハ直ニ院内及庭園中央ニ避難セシメ幸ニ壹名ノ死傷者ナシ
 患者住宅禮拜堂並ニ重病室及新病室診察室(十二年新築ノ分)ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落箇所甚タ
 多シ
 患者作業所兼娛樂所壹棟(八拾坪)ハ倒潰シ折柄該室内ニ於テ作業中ノ患者六名壓セラレタルモ
 直ニ匂ヒ出テ事ナキヲ得タリ
 井戸水ハ一時白色ニ混濁シタルモ飲料ニ支障ヲ生セス
 舊蒸汽機關ハ煉瓦崩壞ノ爲メ使用シ得サルモ他ノ汽罐(大正八年建設ノモノ)ニ故障ナカリシヲ
 以テ辛ウシテ食料品支給並ニ消毒用ニ使用差支ナキヲ得タリ
 建設中ノ汽罐ハ周圍ノ煉瓦ニ龜裂ヲ生シ前方へ突出シ大煙突モ亦中央部ニ龜裂ヲ生シタル箇
 所アリ
 職員住宅ハ瓦ノ破損壁ノ墜落箇所甚タ多シ
 火葬場ハ煉瓦崩壞シ全ク使用ニ堪ヘス
 一 大正十一年及十二年中落成シタル建物左ノ如シ
 (十一年中)
 醫務室附屬便所 一棟 十坪

同上 廊下	一棟	五合
患者住宅	三棟	百三十二坪
(十二年中)		
一時收容病室及重病室	一棟	九十四坪五合
同 附屬便所	一廉	十四坪
同 附屬洗面所	一廉	二坪
同 附屬臺所	一廉	三坪
同 附屬廊下	一廉	九坪五合
診察室	一棟	十三坪
患者面會所	一棟	六坪
炊事場物置	一棟	十坪
動物小舎標本置場	一棟	十二坪
看護人舍宅	一棟(三戸)	三十坪
火夫宿直室	一棟	六坪
患者共同便所	二棟	三坪
看護婦寄宿所増築	一棟	十坪

大正十三年

本年中落成シタル建物左ノ如シ

患者住宅	五棟	二百二十坪
汽罐室	一棟	二十四坪
水槽	一基	
監視所	一棟	二坪
女患者浴場及緋帶交換所	一棟	三十五坪
醫務室増築	一棟	十六坪五合
同 附屬渡廊下	一棟	三坪五合
洗濯所	一棟	十八坪
寢具被服物置	一棟	十二坪
患者作業所	一棟	十坪
看護人駐在所増築	一棟	一坪
醫員舎宅	一棟	三十坪
隔離病室	一棟	六十坪
炊夫宿直室	一棟	六坪二合五勺
渡廊下 <small>(普通病室ト收容病室トノ間)</small>	一ヶ所	五坪五合
消毒用機關室増築	各一ヶ所	四坪五合
患者食品配給所	一棟	十二坪

火葬場
計

一棟	十二坪
計	四百六十坪二合五勺

大正十四年

一十月東京ニ於テ開催セラレタル極東熱帶醫學會及國際聯盟各國衛生技術官交換會議ニ列席ノ各會議員來院親シク視察ヲ了セラル

一本年中落成シタル建物ハ左ノ如シ

表 門	一基	六坪一合六勺
禮拜堂	一棟	二百二十八坪
職員浴場(増築)	五坪	十六坪五合

大正十五年

一六月八日書記横田久ハ癩療養所主事兼任待遇ニ補セラレ同日全生病院主事ヲ命セラル

一二月九日新禮拜堂ノ開堂式ヲ舉行シ舊禮拜堂ニ安置セル御神體ヲ奉遷シ次テ三月五日ニ真宗五月二十日ニ日蓮宗六月四日ニ眞言宗ト順次各本尊ヲ新禮拜堂ニ遷シ各本山並ニ宗務院ヨリ高僧ヲ派遣セラレ莊嚴ナル遷佛式ヲ行ヘリ

一十一月十一日午前一時頃患者住宅松舎一號室ノ押入附近ヨリ發火シ同舎一棟四十三坪五合ヲ燒失セルモ患者中一名モ負傷者ヲ出サ、リシハ不幸中ノ幸ナリキ

一 本年中新築セル建物ハ
 一 應接所兼參觀人控所 一棟 二十二坪
 同 附屬便所並ニ渡廊下 六坪

昭和二年

一 患者收容數年々増加スルニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ヲ生シ三月中地主ト協議ノ上隣接民有地貳萬五千百六拾參坪ヲ買收セリ
 一 同年中落成ノ建物ハ左ノ通り

- 看護長住宅 一棟 十六坪五合
- 雇員及調劑助手住宅 一棟 三十坪
- 盲患者住宅 一棟 六十一坪一合六勺六才
- 職員浴場増築 二坪五合
- 普通病室改築 四十坪
- 同 廊下 十三坪

普通病室ハ開院當時ノ建築ニカ、リ腐朽甚シク到底患者ヲ收容シ得サルヲ以テ患者ノ手ニ依リテ之ヲ改築スルト同時ニ患者炊事場二十坪ノ新築ヲナシタリ

昭和三年

一 收容患者百五十名増員ノ爲メ左ノ建物ヲ増築セリ

- 重病室 一棟 百三十一坪
- 同 渡リ廊下 十五坪
- 患者住宅 五棟 二百二十坪
- 同 附屬物置 五棟 十坪
- 寢具及被服物置 一棟 十五坪
- 炊事場物置 一棟 十五坪
- 醫局及圖書室 一棟 二十四坪
- 醫員調劑員書記住宅 三棟 四十九坪五合
- 看護婦合宿所 増築 十三坪
- 職員浴場 増築 二坪五合
- 井 戸 三ヶ所

一 尙患者ノ手ニヨリ重病室一棟四十坪ヲ改築更ニ患者住宅七坪五合ノ増築ヲ行ヒ患者作業場四十八坪ノ増築ニ著手セリ

昭和四年

一 本年中落成シタル建物ハ左ノ通り

汽罐室

一棟

三十九坪

汽罐用井戸ポンプ室	(改築)	六坪
診察室	一棟	四十二坪
試験室	一棟	二十四坪
同 附屬渡り廊下	二坪	
藥庫及製藥消毒兼試験室	(増築模様替)	六坪七合五勺
前試験室	(移轉模様替)	十八坪
空氣瓦斯タンク置場	一棟	三坪
物品交附所兼物品藏置所	(移轉模様替)	十三坪七合五勺
同 所	(増築)	七坪五合
看護人駐在所	(移轉模様替)	八坪七合五勺
同	(増築)	三坪
診察室附屬渡り廊下	一棟	三坪五合
二號館及手術室	(模様替)	四十二坪
事務所小使室	(増築)	二坪
醫員舍宅浴場	(増築)	一坪五合
脱衣所兼浴場	(増築模様替)	十七坪五合
自動車車庫	一棟	十二坪
看護婦食堂	一棟	十七坪五合

一 右ノ外患者ノ手ニヨリ増築シタルモノハ

娛樂室	(増築)	四十八坪
患者住宅	(菊舎増築)	七坪五合
綑帶交換所	(模様替)	三十五坪

一 本年中ノ施設トシテ試験室ノ増築ヲナスト共ニ理化學的療法ノ設備ヲナシ追加豫算ニヨリ排水工事ヲ完成シ又給水方法トシテ深度三五〇尺以上ノ鑿泉ト壓搾(タンク)ヲ新設セリ

一 防火設備ノ爲メ院内ニ消火栓ヲ敷設シ又消毒物ノ完全ヲ期センカ爲メニ汽罐ノ増設ヲナシ消毒場洗濯場乾燥室等ノ改築ニ著手セリ從來患者ノ輸送ニ際シテハ一方ナラサル不便ヲ感セシヲ以テ患者輸送自動車壹輛ヲ購入シ收容ノ際ハ品川赤羽三河島八王子兩國等ノ各驛マテ出向セシムルヲ以テ多大ノ便利ヲ得ルニ至レリ

一 本年新ニ消防團少年團少女團等ヲ編成シ制規ノ服裝ヲナサシメ輕快ナル動作ニヨリ院内ノ奉仕作業ニ從事セシメ一般患者ノ品性ノ陶冶風紀ノ改善ニ努力セリ

一 患者ハ從來其ノ所在ヲ他ニ漏レサル様苦心シ種々僞名ノモトニ家族等ト音信ヲナシ來タリシモ本年新ニ郵便局内ニ私書函ヲ設置シ又送金ヲ便ナラシムル爲メニ病院名ノ記載ヲ省キ特ニ秋津クラブノ名稱ヲ付シ振替口座ニ加入シタルヲ以テ患者並ニ家族ハ非常ニ喜悅シ安心シテ通信スルニ至レリ

一 九月二十八日ハ本院創立滿二十周年ニ相當スルヲ以テ之カ記念式ヲ舉行セリ

昭和五年

一 皇太后陛下ニハ夙ニ癩病者ヲ御憐憫畏クモ日々ノ供御並ニ御調度品ヲ御節約遊ハサレ十一月十日 昭憲皇太后陛下ノ御名ニ於テ收容患者慰安ノ爲メ金五千圓ヲ御下賜アラセラレ尙ホ多年本病者ノ救療ニ從事シタル職員ニ對シ金品御下賜ノ恩命アリ十二月六日東京府廳ニ於テ傳達式ヲ舉行セラル其ノ光榮ニ浴シタル者院長光田健輔外十三名ナリ

一 收容患者定員ハ九百人ナルモ常ニ千有餘人ヲ收容シ尙ホ聯合府縣ヨリノ申込數常ニ五十名ヲ下ラス直接入院希望者亦益々増加セルヲ以テ八月ノ各府縣協議會ニ於テ來年度ヨリ百人ノ増員ヲ可決シ之ニ伴フ重病舎一棟患者住宅三棟ノ増築ニ著手セリ

一 同年中落成シタル建物ハ左ノ通り

- 一 卿筒室 八坪
- 一 屍室及汚物置場 (増築模様替) 十二坪
- 一 洗濯場、消毒場、裁縫場、未消毒、既消毒品置場、乾燥室 七十二坪
- 一 隔離病室 增築一棟 六十七坪

昭和六年

一 三月十六日院長光田健輔ハ本職ヲ免セラレ國立癩療養所長島愛生園長ニ轉補セラレタルヲ以テ東京府衛生課長輕部修伯院長事務取扱ヲ命セラレ五月五日醫員林芳信醫長ニ任セラレ同日院長

ヲ命セラレ、ト同時ニ輕部院長事務取扱其ノ職ヲ解カレタリ

三月二十五日醫員林文雄本職ヲ免セラレ、ト同時ニ長島愛生園醫官ニ補セラレタリ其ノ他醫務囑託員、雇員、看護人ニシテ長島愛生園ニ轉シタル者五名アリ

一 敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ニ迫ラレ聯合府縣ノ承認ヲ經テ七月現在敷地ノ北方ニ接續セル南秋津字中原山林九千四百七十三坪ヲ買收シタリ

一定員増加並ニ移動

三月二十五日患者男女合計八十一名ヲ國立長島愛生園ニ移送シタリ

本年度ニ於テ收容定員百名増加シ千名トナリタルヲ以テ患者住宅三棟重病室一棟ノ増築ヲナシ患者ノ補充ニ力ヲ致シ一ヶ年間ノ收容數ハ實ニ二百五十名ニ及ヒ年末現在數千九十二名ニ達シタリ如斯多數患者ヲ收容シタルコトハ開院以來未タアラサリキ

一 財團法人全生互惠會ノ設立

畏クモ 皇太后陛下ニハ常ニ癩事業ニ關シ御軫念遊ハサレ昭和五年十一月十日癩患者及ヒ多年本事業ニ從事セル職員ニ對シ御下賜金並ニ御下賜品ノ事アリ本院ニ於テハコノ有難キ思召ヲ記念センカ爲メニ御下賜金ヲ基トシ諸般ノ寄附金收容患者ノ設立ニカ、ル全生賣店、農會試作部、山櫻出版部、互惠部等ノ積立金品ヲ合シ財團法人全生互惠會ヲ設立シ其ノ筋ニ願出タル所四月二十五日付許可セラレタルヲ以テ六月二十六日多數名士ノ來院ヲ得テ設立祝賀式ヲ舉行セリ

一看護人看護婦講習所設立

看護人ノ採用ニ關シテハ收容患者ガ特殊ノ疾病ナルヲ以テ採用ノ困難ナルト共ニ技術取扱等ニ
 缺クル所アルニヨリ看護學講習設備ノ必要ヲ認メ大正四年八月東京府へ設立ノ申請ヲナシタル
 モ經費其他ノ關係上許可セラレザリシカ昭和五年十二月十三日再ヒ上申シタルニ同十七日付ニ
 テ許可セラレタルニヨリ同六年一月十五日警視廳へ申請二月二十八日指定セラレタルヲ以テ五
 月二十九日第一回講習生ノ卒業式ヲ舉行シタリ

一 患者教育舎新設

患者教育舎ノ必要ヲ認ムル事多年漸ク本年七十坪二合五勺ノ校舍ヲ新築全生學園ト命名シ以テ
 十一月十三日落成式ヲ兼ネ學藝品展覽會ヲ開催セリ集マル所一道二府十二縣臺灣南滿洲加奈陀
 等ニシテ千三百點ニ及ベリ

一 同年増築シタル建物左ノ如シ

- 患者住宅 三棟 百三十二坪四合八勺
- 同 物置 三棟 六坪
- 重病室 一棟 六十坪
- 同 附屬渡リ廊下 三坪
- 精神病室 一棟 六十坪
- 教育舎 一棟 七十坪二合五勺
- 寢具及被服物置 一棟 二十坪
- 患者食品配給所 (増築) 一棟 二十三坪

- 消防用器具置場及患者控所 一棟 六坪
- 禮拜堂用便所 一棟 二坪
- 患者食品配給所以下ハ患者ノ手ニヨリ建築シタルモノ 四百三十坪六四五〇枚
- 道路敷石

昭和七年

一 昨六年十一月財團法人瀨豫防協會ヨリ患者相談所二棟ノ建築方ヲ依頼シ來リシヲ以テ東京府ノ
 許可ヲ得テ患者作業ニ依リ工事ニ着手シ五月下旬竣工七月一日ヨリ開所シ年末ニハ九名ノ患者
 ヲ收容セリ尙ホ同協會ヨリ四棟ノ増築方ヲ申來リシヲ以テ直ニ工事ニ著手セリ

一 藤蔭靜枝嬢寄附ノ患者住宅一棟十八坪五合ハ財團法人全生互惠會ニヨリ工事中ノ處十一月竣工
 シタルヲ以テ藤蔭寮ト命名シ男年少者ヲ收容セリ

一 明治四十二年建設シタル患者住宅十棟ハ腐朽甚ク到底患者ノ收容不可能ナルヲ以テ本年度
 内ニ五棟ノ改築ニ着手シタル所三棟(百三十二坪五合一勺)ノ工事終了セシヲ以テ患者ヲ收容セリ
 一 本年中増築シタル建物ハ(前記ヲ除ク)左ノ如シ

- 電氣室 一棟 七坪五合
- 看護婦浴室及脱衣室 一棟 二十九坪二合五勺
- 精米精麥患者作業所 一棟 十八坪五合
- 外來患者診療所兼待合所 一棟 六坪

配食器消毒所

一棟

七坪五合

同上渡廊下

七合五勺

二〇

昭和八年

一 運動場開キ 四月十三日豫テ院内北隅ニ工事中ノ運動場竣工ニ付グラウンド開キヲ舉行セリ

一 全生相談所患者住宅竣工 昨年建築ニ著手セシ癩豫防協會相談所患者住宅四棟ハ全部竣工セリ而シテ昨年竣工ノ分ト合スレバ六棟一〇三四四坪トナリ年末現在ノ收容患者數二十人内男十人女六人トナレリ

一 御歌記念碑除幕式 畏クモ 皇太后陛下ニハ昭和七年癩患者を慰めて「トノ御兼題ヲ仰出サレ
つれづれの友となりても慰めよ
行くことかたきわれにかはりて

トノ御歌ヲ御詠シ遊ハサレタリ

本院ニ於テハ其ノ御歌ヲ永ク記念センカ爲寄附金ヲ以テ御歌ヲ刻ミタル御坤德記念碑建設ヲ企テ十一月十日ソノ竣工ヲ見タルニ依リ入江皇太后宮太夫閣下、鹿兒島宮内省總務課長閣下、大島内務省衛生局長閣下、香坂東京府知事閣下、清閑寺皇太后宮事務官殿始メ其他多數名士御臨場ノ許ニ盛大ナル除幕式ヲ舉行セリ

一 患者住宅改増築 明治四十二年ノ建築ニ係ル患者住宅ハ腐朽甚ク使用困難トナリシヲ以テ昨年度ニ於テ五棟ノ改築ヲ爲セシカ本年ハ残り四棟ト夫婦舎トヲ改築セリ、夫婦舎ハ從來一棟ナリシヲ二棟ト爲シ其他普通病舎一棟ノ増築並ニ看護婦寄宿舍一棟ノ新築ニ着手セリ

一 竣工セシ建物ハ左ノ通り

普通患者住宅

二棟 (改築)

八十八坪三合四勺

夫婦患者住宅

二棟 (改築)

七十坪三合七勺

昭和九年

一 永代神社大祭

豫テ慰安會ニ於テ建設中ナリシ永代神社竣工シタルヲ以テ伊勢皇大神宮、豐受大神宮、明治神宮ノ御三柱ノ御神靈ヲ奉戴シ五月二十二日夜九時ヨリ全職員參列古式ニ則リ遷宮式ヲ舉行シ翌二十三日午後二時半ヨリ大祭ヲ執行セリ

一 楓苗木御下賜

五月二十六日 皇太后陛下ヨリ楓苗木百五十本御下賜ノ御沙汰アリ院長大宮御所ニ伺候拜受シ職員患者一同ニ傳達ノ上院内ニ移植セリ

一 第三區外島保養院患者委託

九月二十一日中國近畿地方ヲ襲ヘル大暴風雨ノ爲メ外島保養院ハ不幸ニモ津浪ノ襲來ヲ受ケ改築殆ント成リテ十一月移轉スルノ豫定ナリシ主要建物及舊建物全部潰滅ニ歸シタルヲ以テ生存患者ヲ全國各療養所ニ委託スルコトトナリ本院ニハ九月二十七日五拾名、十月九日二十名合計七拾名ノ患者ヲ受託收容セリ

一 第一號館其他ノ改増築

年報

二二

明治四十二年ノ建築ニカ、ル事務所ハ狹隘且ツ腐朽セシ處本年度ニ於テ新築工成リ從來ノ面目ハ一新セラレタリ更ニ昨年ヨリ引續キ改増築中ナリシ看護婦寄宿舍一棟増築患者住宅三棟

一 寄附ヲ受ケタル建物

一 神社 本院患者慰安會事業トシテ患者ノ手ニヨリ建築中ナリシ神社一棟一坪(家根銅板神明造リ)ハ五月ヲ以テ全部落成セシヲ以テ同會ハ之ヲ本院ニ寄附シタリ

一 患者住宅 東京市本郷區駒込東片町宇都野研氏ヨリノ指定寄附ニ依リ院内財團法人全生互惠會

ニ於テ建築中ナリシ患者住宅一棟二十二坪二合五勺ハ七月ヲ以テ竣工セシニ依リ其ノ一切ト共ニ同月二十五日之ヲ本院ニ引繼カレタリ

一 本年中ニ竣工シタル建物左ノ通り

一 患者住宅 二棟 (改築) 八十八坪三合四勺

一同 一棟 (新築) 四十四坪

一 看護婦寄宿舍 一棟 (新築) 二十八坪

一本館事務所 一棟 (新增築二階建) 百二十六坪九合

一 附屬便所 一棟 (新築) 三坪七合五勺

一 附屬渡廊下 三棟 三十七坪六合

昭和十年

一 皇室ノ御仁慈

一月十八日 皇太后陛下ノ御思召ニ依リ院長ハ全國各官公立癩療養所長ト共ニ大宮御所ヘ伺候 陛下ニ單獨拜謁仰付ラレ午餐ヲ賜ハル而シテ鶏卵ヲ拜受シ本院ニ於テ之ヲ孵化シタルニ 牡一牝二羽ノ雛解リタルヲ以テ院内ニ光の鶏舎ヲ築キテ飼育セシニ年末ニ至リ十八羽ノ雛ヲ 増加セリ

二月十一日 皇太后陛下ノ重ネ々々ノ有難キ御沙汰ヲ拜シ院長ハ大宮御所ニ伺候院内施設ノ 改善擴張費トシテ御下賜金ヲ拜受シタリ

一 永代神社大鳥居ノ建設

本院永代神社大鳥居花崗岩ハ特志家並職員患者ノ寄附金ヲ以テ建設スルコトハナリ五月十五日 日東村山水川神社武内社掌ヲ聘シ地鎮祭ヲ執行シ同月二十一日御手洗(花崗岩)ト共ニ工事落成セリ

一 納骨堂除幕式

本院多年ノ宿願ナリシ患者ノ遺骨ヲ收藏スヘキ納骨堂ノ建設ハ昨年京都大谷派本願寺同内侍 局東京築地本願寺曹洞宗宗務院日蓮宗宗務院眞言宗豊山派宗務院同智山派宗務院淨土宗宗務 院淺草淺草寺等ノ各宗門並ニ特志家ノ援助ヲ受ケ更ニ本院職員患者ノ寄附金ヲ合セテ財源トシ 九年八月工ヲ起シテ以來約一箇年ノ歳月ト二千二百餘圓ノ工費延人員三千四百四十二人ノ 患者ノ作業トヲ以テ漸ク竣工セシニ依リ六月十九日京都東本願寺御連枝信正院殿親下同淺草 別院沼波輪番西本願寺東京築地別院岡部輪番曹洞宗教學部長來馬琢道師外多數高僧臨場本院

囑託和光堅正師司式ノ許ニ莊嚴ナル佛式ヲ以テ除幕式ヲ舉行微妙ナル奏樂裡ニ院長主事堂前ニ進ミ除幕ヲ行ハ東本願寺法主親下御染筆ノ「俱會一處」ノ金文字燦然トシテ輝キ一同暫時默禱ヲ捧ケリ之ヨリ信正院殿貌下大導師トシテ法要ヲ嚴修セラレ院長ノ謝辭主事ノ工事報告ヲ終リ内務省衛生局長東京府知事曹洞宗來馬教學部長其他來賓ノ祝辭アリ最後ニ信正院殿貌下代理沼波僧正ノ一場ノ挨拶アリテ此ノ歴史の式典ヲ終了セリ

一本年中ニ於ケル竣工建物

一納骨堂一棟 四坪 慰安會ニ於テ建設ノ上本院ニ寄附シタリ

一三井重輕症舍 昨年十月財團三井報恩會ノ依頼ヲ受ケ本院内財團全生互惠會ニテ建設中ノ

左記病舍全部竣工セリ

重症舍

六〇坪

輕症舍

一三五坪

一事務分室

一棟 二階建 (新築)

三二坪二合五勺

一醫員舍宅

一棟 平屋建 (新築)

二〇坪

一書記調劑員舍宅

二棟 平屋建 (新築)

三二坪

一輕症患者住宅

二棟 平屋建 (新築)

八八坪三合四勺

一其他 昭和十年度豫算ヲ以テ建築セラルヘキ炊事場圖書室兼集會所診療室ノ改増築ノ外貯水池ハ目下工事中ナリ

收容定員增加年度

年度別	收容定員
明治四十二年度	三〇〇
大正元年度	三五〇
大正四年度	四〇〇
大正七年度	五〇〇
大正十一年度	六〇〇
大正十三年度	七五〇
昭和三年度	九〇〇
昭和六年度	一〇〇〇
昭和十年度	一一〇〇

職員異動表

任命年月日	摘要	退職年月	職名	氏名
明治四十二年四月		明治四十三年三月	院長事務取扱	大野德太郎
同	明治四十四年九月亡		醫員兼藥劑師	齋藤利一
同	明治四十四年十一月休職	明治四十五年六月	書記	佐々木哲助
同		大正四年十月		石井綱條
同		明治四十三年九月		今道小十郎

大正十三年十一月三十日	昭和六年二月	醫員	渡邊源次郎
同十四年四月二十三日	大正十四年九月	醫員	鏑田榮
同 年六月五日	同十五年	同	許燦
同 年八月十一日	書記	海老澤五郎	
同 年十月三十日	醫養所員	西原ツボミ	
同 年十一月三十日	書記	望月隆三	
同 年十二月三日	昭和九年四月	同	大熊卯之吉
同十五年六月八日	同七年三月三十一日	療養所主事	横田久
同 年七月二十一日	同	醫養所員	五十嵐正
同 年十月四日	昭和三年十二月	同	島憲藏
昭和二年五月二十八日	同六年三月	同	林文雄
同三年十月十六日	同	書記	大川賢太郎
同四年四月十五日	昭和十年十月	醫養所員	鹽沼英之助
同 年六月十二日	同十年十月	調劑員	大山繁隆
同 年八月十二日	同	書記	上田末吉
同五年六月十五日	昭和七年	醫員	大西富美子
同六年三月十六日	同六年五月	院長事務取扱	輕部修伯
同 年五月五日	同	院養所長	林芳信

昭和七年一月二十八日	昭和七年九月	石川縣へ出向ヲ命セラル	
同 年四月十四日	昭和九年五月	療養所主事	廣田安次郎
同 年十一月十八日	同 年七月	醫員	齋藤春雄
同 年十二月十日	同	同	長谷川久次
同 年八月十六日	同	同	藤田敬吉
同	同	同	阿部秀直
同 年八月三十一日	同	同	永井晃道
同 年九月十八日	同	療養所主事	石橋伊八
同 年四月十九日	同	醫養所員	淺野滋
同 年五月三十一日	同	書記	越阪部義行
同 年十一月二十五日	同	調劑員	小岩信一
同十一年二月二十二日	同	書記	肥田敏明
同 年四月三十日	同	調劑員	宮崎米雄
同 年五月六日	昭和十一年五月	醫員	宮本正美
同 年八月二十日	同	同	池尻慎一
同 年九月二十五日	同	同	日戸脩一

第二 概況

年報

一 地 數 九萬五百拾壹坪

內

病院敷地 九萬四百六拾壹坪
患者一時溜所敷地 五十坪

二 建物坪數 百八十四棟 五千六百六十三坪七合八勺三才

內

一號館(事務所支關共)	一棟	百二十六坪九合
同 (附屬便所)	一棟	三坪七合五勺
同 (應接所兼參觀人控所)	一棟	二十二坪
同 (附屬便所)	一棟	二坪
同 (渡り廊下)	一棟	三十七坪五合
二號館醫務室	一棟	三十坪
三號館治療室	一棟	七十五坪
附屬職員手洗及消毒所	一棟	一坪八合
試驗室	二棟	四十二坪
同 附屬渡り廊下	一棟	二坪

解卵器置場

各館便所

同 渡廊下

三號館中央昇降口

裁縫所及物品藏置所

同 渡廊下

物置(事務所用)

醫務室

同 渡廊下

醫局及圖書室

手術室

同 渡廊下

脫衣所

脫衣所及浴場

醫局洗濯所

一時收容病室及重病室

同 附屬廊下

重病舍

年 報

一棟	一坪
三棟	五坪五合三勺
一棟	十五坪
一棟	九合
一棟	二十五坪
一棟	九坪
一棟	五坪
一棟	二十二坪五合
一棟	八坪五合
一棟	二十四坪
一棟	九坪
一棟	二坪
一棟	五坪
一棟	十七坪五合
一棟	十六坪
一棟	百十三坪五合
一棟	九坪五合
二棟	百九十一坪

三一

同 附屬渡廊下	一棟	十八坪
三井重症室	一棟	六十坪
診察室	二棟	五十五坪
同 附屬渡廊下	一棟	三坪五合
普通病室	三棟	百四十三坪五合
同 渡廊下	一棟	六坪五合
九號病室附屬浴場	一棟	二坪二合五勺
同 渡廊下	一棟	一坪
空氣瓦斯タンク置場	一棟	三十坪
動物小舎及標本置場	一棟	十二坪
患者面會所	一棟	六坪
監禁室及謹慎室	一棟	十七坪
監視所(監禁室用)	一棟	二坪
藥庫及器具消毒室	一棟	二十六坪七合五勺
製藥消毒兼試驗室	一棟	十六坪
炊事場(一部二階建)	一棟	六十六坪五合
物置(炊事場用)	五棟	五十二坪

患者炊事場	一棟	二十坪
汽罐室	一棟	六十三坪
消毒所汽罐室	二棟	五十五坪五合
汽罐用井戸ポンプ室	一棟	六坪
火夫宿直室	一棟	六坪
洗濯所	一棟	十八坪
洗濯仕上所兼乾燥室	一棟	十坪
事務分室(二階建)	一棟	三十二坪二合五勺
物品交附所兼物品藏置所	一棟	二十一坪二合五勺
物置(物品交附所用)	一棟	二坪
物置(寢具被服其他用)	三棟	三十五坪
普通患者住宅	三六棟	千五百八十坪二合六才
三井輕症舎	三棟	百三十五坪
夫婦患者住宅	二棟	七十坪三合七勺
少年舎	一棟	十一坪五合
患者住宅附屬物置	九棟	十八坪
隔離病室	二棟	百〇一坪五合
新隔離病室	一棟	六十坪

患者作業所兼娛樂所	棟	五十四坪二合五勺
患者浴場(男子用)	棟	三十五坪
患者浴場及繙帶交換所(女子用)	棟	三十五坪
特別室	棟	十六坪二合五勺
看護人駐在所	棟	十一坪七合五勺
禮拜堂	棟	百二十八坪
患者食品配給所	棟	三十五坪
屍室及汚物置場	棟	二十坪
汚物燒却場	棟	三坪
監視所	棟	二坪
患者共同便所	棟	四坪
見張所	棟	一坪七合七勺七才
通用門駐在所	棟	一坪二合五勺
豚小屋	棟	十坪五合五勺
動物飼育舍	棟	十四坪
假繙帶交換所	棟	七坪五合
假浴場	棟	八坪
火葬場	棟	十二坪

納骨堂	棟	四坪
物置(舊火葬場)	棟	十二坪
患者一時溜所	棟	九坪
門衛所	棟	十三坪七合五勺
自動車庫	棟	十八坪
所長舍宅	棟	三十八坪七合五勺
醫長舍宅	棟	三十四坪
主事舍宅	棟	二十七坪五合
醫員舍宅	棟	九十一坪
調劑員舍宅	棟	三十三坪
書記舍宅	棟	百十一坪五合
醫員調劑員舍宅	棟	六十六坪
看護長舍宅	棟	十六坪五合
機關手及雇員舍宅	棟	六十坪
雇員調劑助手舍宅	棟	三十坪
看護人舍宅	棟	五十九坪五合
看護人寄宿所	棟	百〇三坪
看護婦食堂	棟	十七坪五合

職員浴場 一棟 十五坪
 唧筒室 一棟 八坪
 洗濯場、消毒場、裁縫場、未消毒既消毒品置場、乾燥室 一棟 七十二坪
 精神病室 一棟 六十坪
 消防用器具置場及患者控所 一棟 六十坪
 寢具及被服物置 一棟 二十坪
 教育舍 一棟 七十坪二合五勺
 禮拜堂用便所 一棟 二坪
 電氣室 一棟 七坪五合
 外來患者診察所兼待合所 一棟 六坪
 精米精麥患者作業所 一棟 二十四坪
 看護婦浴室及脫衣室 一棟 二十九坪二合五勺
 配食器消毒所 一棟 七坪五合
 同 渡廊下 一棟 七合五勺
 神社 一棟 一坪
 患者圖書館 一棟 四十五坪五合

三職員

職員

院長	林信	一	十五坪
主事	石橋伊八	一	八坪
醫師	西原ツボ	一	七十二坪
同	五十嵐正	一	六十坪
同	藤田敬	一	二十坪
同	阿部秀	一	七十坪二合五勺
同	淺野	一	二坪
同	日戶脩	一	七坪五合
同	長谷川久	一	六坪
同	池尻慎	一	二十四坪
同	齋藤勝	一	二十九坪二合五勺
同	本莊平治	一	七坪五合
同	齋藤勝	一	七合五勺
同	本莊平治	一	一坪
同	本莊平治	一	四十五坪五合

機關手 一 囑託 一
 調劑助手 二 看護婦 二
 工業手 一 看護婦講習生 一
 作業手 一 給仕 一

男 女

一 三 一 八 一 四 九

小使 六
炊夫 八
火夫 二
洗濯 三

裁縫 一人
雜役 二人
電氣 一人
臨時 三人
雜役 一人

二 四 一 三

四 收容定員

定員 壹千壹百人

年末現在數 壹千壹百參拾貳人

內男七百七拾七人
女參百五拾五人

類豫防協會相談所 二〇人內
一時救護所 一九人內
大阪委託 六一人內
男女男女男女男
一五〇二七八八
一人一人一人一人

五 本年中ニ於ケル重要事項

一、舊帝室博物館建物下附

二月三日 院長主事宮内省へ出向東京府輕部衛生課長立會ノ上、上野舊帝室博物館事務所外四百五拾餘坪ノ下附書ヲ拜受シ二月十日諸般ノ準備ヲ整へ其ノ取壞シニ着手シ三月十五日ヲ以テ全部之ガ運搬ヲ完了セリ
一月二十四日 入江皇太后宮大夫閣下ヲ通シ益田孝氏外八氏ヨリ金壹萬貳千圓也ノ移築費指定寄附ヲ受領シ本用材ヲ以テ本院ニ於テ急施ヲ要ス可キ患者注射所外七棟ノ建築計畫ヲ樹テタリ寄附者名左ノ如シ

一金貳千圓也	益田 孝氏	一金貳千圓也	藤原 銀次郎氏
一金貳千圓也	鹽原 又策氏	一金貳千圓也	長尾 鐵彌氏
一金壹千圓也	池田 成彬氏	一金壹千圓也	有賀 長文氏
一金壹千圓也	前山 久吉氏	一金五百圓也	戸田 彌七氏
一金五百圓也	中村利器太郎氏		

斯クシテ三月十九日ヨリ設計略成リタル全生會館患者注射所患所理髮所等ノ建築ニ着手セリ

一、永代神社石燈籠ノ建設並例祭

本院永代神社石燈籠壹對ハ職員並ニ患者ノ寄附ヲ以テ建設シ五月二十二日竣工セリ
五月二十三日水川神社武内神官ヲ齋主ニ聘シ例祭ヲ執行セリ來賓トシテ東京府衛生課長代理屬瀧口謹二氏本村長榎本義道氏外多數列席セラレタリ

一、全生圖書館開館式

昨年末ヨリ患者ノ手ニ依リ建築中ノ全生圖書館ハ四月工事竣巧シタルモ尙内部ノ設備其他ニ日時ヲ要セシヲ以テ十一月舊圖書館ヲ此處ニ移轉シ十二月十五日開館式ヲ舉行シ併セテ本院學園兒童學藝品展覽會ヲ開催シタルニ近隣町村小學校ヨリ七百餘點ノ出品アリ頗ル盛會ナリ
キ來賓トシテ中山田無警察署長榎本本村長小池本村小學校長他近隣小學校長並ニ教職員等多數列席セラレタリ

一、名士ノ視察及慰問布教

四月六日 和田秀豐氏ノ案内ニテ聲樂家三浦環女史來院歌劇お蝶夫人外數種ノ聲樂ヲ以テ患

者ヲ慰問セラレタリ
四月八日 釋尊降誕會ニ際シ小野練雄師、和光堅正師、一月正空師、好村春基師其他淺草本願寺、築地本願寺ヨリ高僧多數來院、花祭會執行後布教アリタリ、又同日小野練雄師ノ案内ニテ陸軍歩兵大佐國分習也氏來院、青年、少女團檢閲ノ上禮拜堂ニ於テ一般患者ニ對シ、日本ヲ中心トセル國際情勢ト題シ講演アリタリ

尙此日佛教餅ノ日會ヨリ金百五拾圓ノ豫算ヲ以テ供物並ニ演藝一座ヲ寄贈セラレタリ
五月八日 海軍軍醫少將宮川正雄閣下院內ヲ視察セラレタリ

五月十六日 春季慰靈祭ニ際シ淺草本願寺ヨリハ英秀雲師外高僧多數來院、壯嚴ナル法會ヲ執行セラレタリ

六月十日 日蓮宗布教師小野練雄師ノ先尊ニテ同宗管長代理教學部長日甫寬實僧正外高僧多數來院、墓前ニ於テ大施餓鬼會ヲ執行シ夫ヨリ禮拜堂ニ於テ法話アリタリ

六月二十日 弘法大師降誕會ニ際シ眞言宗布教師一月正空師ノ先尊ニテ同宗東京宗務支所長蓮眞猛僧正外高僧多數來院、法會ヲ執行シ後法話アリ尙同日東京金剛講員多數來院、和讚會ヲ執行セラレタリ

七月五日 日本女子大學教授生江孝之氏、日本M.T.I.幹事鈴木恂氏ハ音樂家福島常雄氏及其アシサンブル外多數慰問團員ヲ同行シテ來院講演、音樂並ニ發聲映畫ヲ以テ患者ヲ慰問セラレタリ

七月七日 內務省豫防課草間技師ハ新潟醫大衛生學教授宮路重嗣氏、豐島病院長內田三千太郎

氏ヲ案内院內ヲ參觀セラレタリ

七月二十四日 北多摩佛教聯合會主催ニヨリ院內先亡供養大施餓鬼會ヲ執行シ曹洞宗務院ヨリハ特ニ庶務部長谷口虎山師來院、近隣寺院ノ隨喜ハ清瀬村全龍寺、武田勝一師外十八名ニシテ谷口師ノ慰問法話ノ後、同會寄贈ノ寄席演藝アリタリ

七月二十七日 和光堅正師ノ案内ニヨリ大谷派佛教婦人會幹事長沼波瓊子女史、外會員十二名來院、病者ニ慰問ノ挨拶アリタリ

九月七日 東京府廳ニ於テ開催セラレタル本院明年度豫算協議會ニ出席ノ各聯合府縣衛生課長並ニ天羽東京府營繕課長ハ院長ノ案内ニテ院內視察後禮拜堂ニ於テ患者ニ對シ、玉木千葉縣衛生課長一行ヲ代表シテ一場ノ訓話アリタリ

十月十六日 秋季慰靈祭ヲ舉行シタルニ淺草本願寺ヨリハ寺西惠然師外高僧來院、壯嚴ナル法會ノ後法話アリタリ

十月二十二日 此ノ日北部保養院火災全滅ノ電報ニ接シタルヲ以テ直ニ內務省ニ照會シ緊急職員會ヲ開キ速時救護班ヲ組織シ應急處置ニ要スル醫療材料並ニ藥品等ヲ攜帶現地ニ急行セシムル一方職員ヲシテ罹災患者ニ送ルヘキ寢具被服百人分ノ荷造ヲナサシメ同日午後五時東京秋葉原驛發ノ貨物車ニテ輸送シタリ

十月二十三日 日蓮宗會式ニ際シ宗務院ヨリ管長代理教學部長馬田行啓僧正外六名布教師小野練雄師ノ案内ニテ本院禮拜堂ニ於テ法會執行後布教アリタリ

尙同行ノ海軍造船少將岩野直英閣下ハ學園庭ニ於テ院內青年、少女團檢閲ノ後禮拜堂ニ於テ

一般患者ニ講演アリタリ
 十一月七日 眞宗報恩講ニ際シ淺草本願寺ヨリ布教師和光聖正師外三名佛教濟生軍ヨリハ長末師來院法會執行後法話アリタリ
 十一月十六日 東京ニ開催セラレタル第九回瀨學會出席ノ長島愛生園長光田健輔氏星塚敬愛園醫官鹽沼英之助氏大阪帝大櫻根好之助氏前外島保養院長村田正太氏現同院長原田久作氏一行十三名ハ院長ノ案内ニテ院内ヲ參觀ノ上禮拜堂ニ於テ患者ニ挨拶アリ尙患者ハ歡迎ノ音樂舞踊會ヲ催シタリ
 十一月二十一日 第九回農產物品評會ヲ開催セシニ地元東村山村ヲ初メトシ久留米大和田清瀨小平所澤松井片山等近接各町村ノ出品二千八百六十餘點ニ達シタリ而シテ褒賞授與式ハ審査長佐藤東京府農事試驗場長其他草間東京府衛生課長近接各町村長農會長農事世話人等多數臨席盛會裡ニ舉行セリ
 十二月三日 眞宗大谷派本願寺法主名代トシテ同派教學部長津田賢師來院院長ノ案内ニテ院内參觀ノ上禮拜堂ニ於テ法話アリタリ
 十二月二十一日 クリスマスニ際シ好善社藤原鈎次郎師ノ案内ニテエ、オルトマンス師慰廢園和田秀豐氏日本M.T.I理事白戸八郎師田中儀三郎氏淺香定司氏其他多數臨席禮拜堂ニ於テ聖誕祭ヲ舉行シ後講話アリタリ
 一、一時救護所ノ開設
 財團 三井報恩會ヨリ寄附ノ重輕症舎初度調辨設備ヲ含ムヲ一時救護所ニ充ツルコトト爲シ聯

合府縣並ニ警視廳ト協議シ七月之カ開設ヲ見タリ

一、本年中竣工若クハ寄附ヲ受ケタル建物

イ、竣工建物

一、炊事場 (新築) 一棟	木造平家建一部二階建 人造スレート葺	六六坪五合
一、治療室 (増築) 一棟	木造平家建瓦葺	二二坪
一、醫局洗濯所 (新築) 一棟	木造平家建人造スレート葺	一六坪
一、渡廊下 (同) 一棟	木造平家建鐵板葺	一〇坪
一、職員手洗及消毒所 (同) 一棟	同	一坪八合
一、昇降口 (同) 一棟	同	九合
一、看護婦寄宿舎 (増築) 一棟	木造平家建瓦葺	一五坪
一、貯水池 (増設) 一箇所	同	三三〇石
一、事務所小使室附屬物置 (新築) 一棟	木造平家建瓦葺	八坪
一、全生圖書館 (同) 一棟	同	四五坪五合
一、重症室附屬浴場九號 (増築) 一棟	木造平家建人造スレート葺	二坪二合五勺
一、同渡廊下 (同) 一棟	同	一坪

ロ、寄附建物

一、本院内財團全生互惠會ノ手ヲ以テ建築セル財團三井報恩會ノ建物左記四棟ハ全部本院ニ寄附セラレ八月十二日之カ引繼ヲ受ケタリ

重症 舍一棟 木造平家建人造スレート葺 六〇坪
 輕症 舍三棟 (一棟四五坪木造平家建人造スレート葺 一三五坪
 初度調辦設備一式 (百人分) 四、〇〇〇圓

一、三井物産株式會社員久山寅一郎氏外三〇三名ノ寄附ヲ以テ本院慰安會ノ手ニ依リ建築セル左
 記建物本院ニ寄附セラレ八月三十一日之カ引繼ヲ受ケタリ
 輕症 舍一棟 木造平家建瓦葺 一一坪五合

一、職員異動
 二月二十二日 肥田敏明本院書記ニ任ス
 四月三十日 宮崎米雄本院調劑員ニ任ス
 五月六日 宮本正美本院醫員ニ任ス
 五月三十日 醫員宮本正美願ニ依リ本職ヲ免ス
 八月二十日 池尻慎一本院醫員ニ任ス
 九月二十五日 日戸脩一療養所醫員ニ任ス本院醫員ニ補ス
 十二月十日 看護婦長石渡こと願ニ依リ本職ヲ免ス

第二 總 經 費

一、豫 算
 歳入經常部

科 目	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度
不用品賣拂代	四七五〇	四七五〇	四七五〇	四七五〇	五〇〇〇
患者遺留金	二〇八〇	二〇八〇	二〇八〇	二〇八〇	二〇八〇
各府縣分擔金	三二八九五二	三二八、二六六、六五	三二四、三三〇、六五	三三〇、五二一、四二	三三〇、三九四、二九九
癩瘰防協會委託患者費辦償金		四、五六三、〇〇	四、五六三、〇〇	四、六六六、五〇	七、三〇〇、〇〇
職員納付金	三、一三五〇	三、〇三三、〇〇	三、〇三三、〇〇	三、〇三三、〇〇	四、八三〇、〇〇
恩給分擔金		三、〇三三、〇〇	三、〇三三、〇〇	三、〇三三、〇〇	一〇、三三三、〇〇
外島保業院委託患者費辦償金					一〇、三三三、〇〇
合 計	三、九二七、七〇二	三、三三〇、一〇一、四五	三、四八二、三三九、四五	三、六六一、九二一、九	三、三二一、六九三、二〇〇

科 目	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度
綠越金	二五、一四一、七七八	二一、八六五、〇〇	一、四三三、〇〇	四、二二五、六一	一、〇〇〇
寄附金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合 計	二五、一四二、七七八	二一、八六六、〇〇	一、四三四、〇〇	四、二二六、六一	二、〇〇〇
歳入總計	二五、四一、九八〇	二五、五〇、六四五	二、四九六、九三、四五	三、一六六、一七八〇	三、三二一、六九五、二〇〇

歳出經常部

歲出經常部

科	科目	歲入臨時部				
		昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度
科	不用品賣拂代	5,278.25				1,263.77
	救護費	29,069.80	32,895.22	22,826.65	24,330.65	31,052.12
	患者遺留金		2,000	1,858.75	3,724.75	3,562.33
	各府縣分擔金		4,872.25	1,858.75	8,153.60	11,007.00
	豫防協會委託患者費 豫防協會委託患者費 外島保健院委託患者費 辦償金	23,177	23,822	27,286	29,862	37,295
職員分擔金					4,025.7	
恩給分擔金					3,719.5	
合計		29,620.80	29,633.49	23,039.82	25,591.50	32,693.04
科	科目	歲入經常部				
科	昭六年度	昭七年度	昭八年度	昭九年度	昭十年度	
	總計	318,499.07	276,293.37	253,715.99	257,792.11	327,082.53
	合	22,221,787	4,705,847	23,317,737	1,877,611	89,408
	繰越金					
	其他					

二、決算

備考 △印ハ豫防協會委託患者ニ對スル治療品費及食費ナリ

科	科目	歲出臨時部				
		昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度
科	俸給	31,350.00	30,358.00	30,358.00	32,260.00	34,270.00
	雜給	50,645.50	52,789.50	52,789.50	55,855.20	58,012.25
	患者給	1,676,020	1,676,020	1,676,020	1,676,020	1,676,020
	試驗費	873.55	873.55	873.55	873.55	873.55
	修繕費	7,687.00	6,987.00	6,987.00	8,276.00	8,511.00
雜費	23,337.55	23,171.05	23,171.05	27,352.05	31,195.20	
恩給	273.60	1,349.00	1,849.00	2,425.00	2,425.00	
豫備費	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	
合計		2,319,278.00	2,361,933.55	2,361,933.55	2,603,860.50	2,832,902.00
科	科目 <td colspan="5">歲出經常部</td>	歲出經常部				
科	昭七年度	昭八年度	昭九年度	昭十年度	昭十一年度	
	總計	225,492.00	188,733.00	135,000.00	363,531.75	394,050.00
	合	22,492,000	18,873,300	13,500,000	36,353,175	39,405,000
	初年度					
	敷地調辦費					
建築費	22,492,000	18,873,300	13,500,000	36,353,175	39,405,000	

科目	昭和六年度		昭和七年度		昭和八年度		昭和九年度		昭和十年度	
	金額	日當人	金額	日當人	金額	日當人	金額	日當人	金額	日當人
俸給	二二,一九七三・八	六八八	二二,八八八・七	六八八	二七,三二四・六	六八八	二六,〇八五・九	六八八	二六,七三三・五	六八八
雜給	五二,三五四・三	七〇〇	六二,八一六・二	七〇〇	五三,九二八・九	七〇〇	五五,六三〇・八	七〇〇	五八,六七〇・七	七〇〇
患者試驗費	一〇八,九三〇・三	七〇〇	一一,九三三・五	七〇〇	一一,〇四六・三	七〇〇	一二,七四七・七	七〇〇	一四,二五二・八	七〇〇
救護費	五五七・〇	七〇〇	六五七・〇	七〇〇	七二四・六	七〇〇	八二八・〇	七〇〇	八七三・五	七〇〇
修繕費	一九〇・五	七〇〇	七六八・六	七〇〇	六,六〇二・五	七〇〇	六,四八七・三	七〇〇	八,二七五・六	七〇〇
雜給金	二二,五六八・〇	七〇〇	二二,三四〇・二	七〇〇	二二,五七〇・六	七〇〇	二四,九一六・八	七〇〇	二九,二七五・七	七〇〇
恩給金	—	—	—	—	一,三六三・五	七〇〇	二,七八三・〇	七〇〇	二,三三三・〇	七〇〇
合計	二一九,五三一・八	六八八	三三〇,八一九・〇	七〇〇	二二二,九六五・三	七〇〇	二四四,二〇二・六	七〇〇	二六八,七〇二・〇	七〇〇
備考	△印ハ瀨豫防協會委託患者ニ對スル治療品費及食費ナリ									
歳出臨時部	—									
科目	昭和六年度		昭和七年度		昭和八年度		昭和九年度		昭和十年度	
建築費	四一,九〇六・八	—	二二,四九二・〇	—	一八,八七三・〇	—	一三,五〇〇・〇	—	三六,二八八・六	—
初年度調辨費	一〇,〇〇〇・〇	—	—	—	—	—	—	—	一九七〇・七	—
合計	五一,九〇六・八	—	二二,四九二・〇	—	一八,八七三・〇	—	一三,五〇〇・〇	—	五五,九〇九・三	—
歳出總計	二七二,四四三・九	六八八	二五三,三三一・六	七〇〇	二五一,八三八・八	七〇〇	二五七,七〇二・三	七〇〇	三二四,六九二・四	七〇〇

三、患者一人當經費

年次	經常部決算		食費決算		治療費決算		被服費決算		當該年度中收容患者延數
	總額	日當人	總額	日當人	總額	日當人	總額	日當人	
大正十元五年度	一九七,三六一・六七	六八八	五三,一六四・七二	一九五	一六,一九九・八八	五七	六三,九四〇・九四	二八二,四四六	
昭和二年	二〇八,四八四・一六	七〇〇	五七,五三七・七五	一九三	一七,四九〇・九七	五八	五,六五〇・七一	二九六,八三二	
昭和三年	二二四,五八四・三七	七〇〇	六六,六四七・四一	二〇七	二〇,二四〇・六九	六三	三,一四九・九七	三二〇,六八三	
昭和四年	二四七,五九八・四一	七二二	六九,二九一・二二	一九九	二〇,七六三・七八	五九	六,二六六・八四	三四七,六七〇	
昭和五年	二二九,五三三・一八	六一七	六一,三六九・七七	一九一	二〇,八六三・七七	五五	四,六九三・二八	三七八,一六六	
昭和六年	二二九,五三三・一八	五七四	五七,六一三・九七	一六二	二二,三二一・八九	五八	五,六三三・五五	三八,一九一	
昭和七年	二二〇,八一九・六〇	五七七	六一,〇六一・一四	一五〇	二二,九九七・七一	五七	五,四二八・六一	三九八,五九八	
昭和八年	二二二,九六五・三八	五七五	六四,八四六・二四	一五八	二二,八七七・八七	五六	六,三九九・三二	四〇二,二七八	
昭和九年	二四四,二〇二・六三	六一一	七〇,四六八・八一	一七〇	二二,七八一・七九	五三	八,〇五七・九七	四〇二,二七八	
昭和十年	二六八,七〇二・〇四	六五九	八三,四三三・九二	一九七	二五,二六五・四八	六〇	六,七九九・八二	四〇二,二七八	

備考

- 一、當該年度中收容患者延數欄△印ヲ付セルハ瀨豫防協會委託患者延數○印ハ大阪委託患者ノ延數ナリ。
- 二、一人一日當經費中食費及治療品費算出ハ瀨豫防協會委託患者並ニ大阪外島委託患者延數ヲ加算々出セリ。

第四 治療

現今瀨ノ治療薬トシテ最モ推奨スヘキモノハ大風子油ニシテ本院ニ於テハ内務省衛生試験所製ノ大風子油ヲ使用セリ、本油ハ主トシテ「ヒドノカルプス、アンテルミンチカ」及「ヒドノカルプス、

アルビートナノ種子ヨリ搾取セルモノナリト云フ。之ヲ攝氏百二十度前後ニ熱シテ消毒滅菌シ腎筋肉或ハ大腿上膊等ノ皮下ニ一回二〇—五〇ccヅ、一週三回注射シ一箇年百回乃至百二十回ニ及ヒ數年間連續ス、只嚴寒ノ候ニアリテハ藥液ノ吸收不良ナルヲ以テ二三週間休止スルコト、セリ

大風子油ノ有効ナルコトニ就テハ既ニ一般ノ認知スル處ニシテ、コノ注射ニヨリ班紋結節浸潤ノ吸收消失潰瘍ノ治癒、眉毛頭髮ノ再生等臨床上著明ノ効果ヲ認ムルノミナラズ癩菌ノ皮膚粘膜等ヨリ破壊消滅スルノ狀ヲ顯微鏡下ニ證スルコトヲ得即チ之等組織標本ヲ鏡檢スルニ初メ無數ノ癩菌ヲ宿シタル癩細胞ハ次第ニ癩菌ヲ失ヒソノ消滅ノ場所ニ脂肪樣體ノ顆粒ヲ含有スル一種ノ空泡細胞ニ變ズルヲ認ムルナリ、然レドモ斯ノ如キ機轉ノ全身各組織ニ一齊ニ起ルヤ否ヤニ就テハ疑問ノ存スル處ニシテ何レカノ部分ノ神經内或ハ細小血管ノ内皮細胞内等ニ於テ癩菌ハ依然トシテ變化セズ潜伏生存ヲ續ケ一定ノ期間多クハ六七年ヲ經過シ身體ノ抵抗力ノ減弱アランカ假令大風子油注射ヲ繼續シツ、アルモ再ビ活潑ナル繁殖ヲナシ病狀ノ増惡ヲ來スコトアルハ屢々認ムル處ナリ斯ル再發生ノ結節浸潤等ニ對シテハ大風子油ノ効力モ初發性ノソレニ比シ著シク劣リ容易ニ病勢ヲ輕快鎮靜セシメ能ハザルハ甚ダ遺憾ノコトナリトス。近來斯ル場合ニ沃度加大風子油、エチール、エステルヲ局所的ニ結節内へ〇二—〇三ヅ、數回注射スルコトニヨリテ其ノ結節ハ概ネ吸收スルヲ見タリ、然レドモコノ方法ハ個々ノ結節ニ就テ行ハサルベカラザルノ煩アルヲ缺點トナス。

大風子油及ヒソノ製劑以外近時試用セラレツ、アル藥品トシテハ諸種ノ金製劑硫黃製劑等ア

ルモ未タ全身的ニ大風子油以上ノ効果ヲ舉グル域ニ達セザルヲ遺憾トス

本院ニ於テハ近來新ラシキ試ミトシテ癩豫防協會ヨリ靜脈内注射用大風子油液内務省衛生試驗所製ノ分與ヲ受ケ一部ノ患者ニ用ヒツ、アルモ尙ホ改良ヲ要スベキ點アリテ未ダ結論ニ達セズ。

次ニ患者ニ對スル治療的處置ニ就イテ述ベン、本院ニ於テ患者ヲ收容スルヤ防疫的意味ニ於テ數日間收容患者病室ニ居ラシメ癩ノ症狀ト且ツ其ノ他ノ傳染性疾患合併症等ノ有無ヲモ檢診シ其ノ症狀ニ應ジテ或ハ一般患者ト共同生活ニ入ラシメ或ハ重症患者病室ニ移ス等夫々適當ナル處置ヲ講ズ。

一般入院患者ノ診察ハ醫長及ヒ醫員囑託醫十名ノ醫師ニヨリテ分擔シ便宜上内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、物理療法科、齒科、口腔科、繃帶交換科等ニ分テリ。

内科ニ於テ多ク見ル症狀ハ、癩菌ノ破壊吸收スル時ニ發スル癩性結節性紅斑ニシテ同時ニ神經痛關節痛等ヲ併發スルコト多シ本症ハ患者間ニ於テ熱瘧ト唱フルモノニシテソノ經過ハ數週ヨリ永キハ數年ニ亘リ煩ハシキ發疹發熱ヲ反覆シ爲ニ身體衰弱シテ結核性疾患ヲ誘發シ死ノ轉歸ヲトルコトアリ。本症ニ對スル療法トシテハ輕症ナル者ニハ三%クロールカルシユウム液ノ靜脈内注射ヲ毎日行フ事ニヨリテ良好ノ結果ヲ來スコトヲ得。又劇烈ナル關節痛ヲ伴フ場合ニハ「銀エレクトロイド」ノ皮下又ハ靜脈内注射ヲ施シテ相當効果ヲ納メツ、アリ。癩性神經痛モ亦屢々來ル症狀ニシテ患者ノ最大苦痛トスルモノナリ、此ノ療法ハ局所ノ罨法、鎮痛劑、鎮靜劑ノ内服或ハテトロドトキシシン、アンチピリン等ノ皮下注射クロールカルシユウムノ靜脈内注射ノボカイシノ

神經幹内注射等ニヨリテ概ネ好結果ヲ得ルナリ更ニ近時之等ニ赤外線療法ヲ併セテ試ミツ、アリモルヒネ等ノ麻醉藥ハ一時的ノ鎮痛作用アルモ容易ニ習慣性トナリテ中毒症ニ陥リ患者自身ノ不幸トナルノミナラズ甚シキニ至リテハ療養所内ノ秩序ヲ亂リ一般社會ノ安寧ヲ害スルニ至ルノ惧レアルヲ以テ本院ニ於テハモルヒネ類ノ使用ヲ嚴禁セリ

其ノ他ノ内科的疾患トシテハ結核性諸疾患ノ外癩性腎臟炎ヲ屢々見ル、本症ハ患者ノ死因中重要ナルモノナリ

外科的治療ノ大ナルモノハ繃帶交換ナリ癩結節或ハ浸潤ノ崩壊ニヨリテ生スル癩性潰瘍ノ處置ハ大多數ノ患者ニ就テ行ハザルベカラズ、斯ル患者日々數百人ニ及ブ癩性潰瘍足穿孔症ニ對シテハ、リバノール沃度ホルム或ハ種々ノ軟膏類ヲ症狀ニ應ジテ使用ス又人工太陽燈ノ照射モヤ、見ルベキ効果アリ、手術ヲ要スル患者モ亦多數ニテ喉頭ノ癩結節又ハ浸潤腫脹ニヨル狭窄ハ窒息死ヲ招ク危險アルヲ以テ氣管切開手術ヲ行ヒテ之ヲ救フ事屢々ナリ。瘰癧、火傷、足穿孔症等ノ爲ニ手足ノ骨ノ壞疽ヲ來セルモノハ之ヲ除去セザルベカラザルノミナラズ時ニハ下腿ノ切斷手術ヲ要スルモノ亦尠カラズ然ラズンバ全身ノ敗血膿毒症ヲ惹起スル惧アレバナリ、又神經ノ浸潤肥厚シテ劇烈ナル神經痛ヲ來セル場合ハ神經鞘剝離手術ヲ施シテ良好ナル結果ヲ得ツ、アリ。

眼科的疾患トシテハ癩性角膜炎、外鞏膜炎、虹彩毛樣體炎、續發性白內障等多ク爲ニ失明ニ陥ル者モ尠カラズ從ツテ是等ニ對スル處置ハ極メテ必要ナリ就中虹彩切開手術ハ瞳孔閉鎖症及ビ角膜濁濁ノ瞳孔傾ヲ覆ヘル場合ニハ最モ推奨スベキ手術ナリ。

失明統計

		收容患者數	失明者數
男	七七七		一六四
女	三五五		八〇
計	一、一三二		二四四

備考 失明者ハ兩眼共一米ノ距離ニ於テ指數ヲ辨ジ得ザル程度以下ノモノ病型別ハ神經癩男四女六名他ハ全部結節癩ナリ

鼻腔咽喉ノ粘膜ハ癩ノ好發部位ナルヲ以テ耳鼻咽喉科的治療モ亦忽ニスルヲ得ザルナリ鼻翼或ハ鼻腔内ノ癩性潰瘍浸潤ニヨル鼻道ノ崩潰或ハ狹窄閉鎖又ハ喉頭狹窄等ニヨル呼吸障害之等諸症ニ續發シ易キ慢性中耳炎等ハ最モ多キ病症ナリ。

右ノ如キ診療上重症ニシテ特別ナル加療ヲ要スルモノハ重症者病室ニ入ラシム重症室ハ十一室約二百床ヲ有シ夫々擔任ノ醫員看護婦ヲ定メテ一般病院ニ於ケル入院治療ノ如クス、尙患者ノ輕症ナルモノヲシテ晝夜枕頭ニ付添ハシメ、衣食藥品ノ介補ヲナサシメツ、アリ。

第五 患者の狀態

本院ニ收容セラル、患者千百三十二名十二月末日現在ハ四十一舍ノ患者住宅ニ分住セシメ一舍ハ概ネ四室ニ分タレ各舍ニ二十七名内外ヲ入ル、又男子、女子、小兒ハ各々舍ヲ異ニシ兩性ハ別居セシム、其内ノ二舍ハ戸籍上ノ夫婦ヲ同棲セシム、目下二十組ノ夫婦ヲ收容セリ、而シテ四十一舍ノ内盲人及ヒ手足不自由ニテ自用ヲ辨シ能ハサルモノ又ハ六十歳以上ノ老人等三百六十三名ハ十

四舍ノ不自由舎ニ收容シ精神異常者ハ別ニ病棟ヲ設ケテ之ニ容ル此等不自由病舎ニハ比較的輕症ナル患者七十名ヲ付添人トシテ衣食ノ世話ヲ爲サシメツ、アリ。

更ニ之等四十一舎ニ分住セル患者ニシテ重症トナレルモノ又ハ餘病併發ノモノハ各科ノ醫員之ヲ診察シ別ニ設ケタル重症室ニ收容シ恢復後ハ自舎ニ歸舍セシム。

丁年未滿ノ少年少女ハ四舎ニ收容シ寮父母ヲ置キテ之カ世話ヲナサシメ爾餘二十三舎ハ自治的ノ制度ヲ設ケ各舎ニ一名ノ舎長六箇月毎選舉ヲ置キ自舎ノ整理衛生衣食作業等ノ世話ヲナサシム、一般患者ハ午前ハ専ラ治療時間トシ午後ハ各種ノ作業ニ從事スルコト、セリ。

一、衣 食

イ、被服寢具 患者一人ニ對シテ貸與又ハ給與スル被服寢具ハ左之通り

品名	品質	數量	新品貸與時期	交換期間	備考
綿入半纏	伊勢棒縞(紺)	一	十一月一日貸與	三ヶ年	昭和九年新調
綿入	同	一	十二月一日同	同	同
袷衣	同	一	四月一日同	同	同
襦袢	同	二	六月一日同	二ヶ年	同
肌着	晒木綿(白)	一	六月一日同	同	同
掛蒲	表三州生木綿白	一	隨時貸與	同	同
敷蒲	同	一	隨時貸與	同	同
大布	同	一	隨時貸與	同	同
小包	同	一	隨時貸與	同	同

備考
 隨時破損ヲ補ヒ交換スニ枚ハ十二月一日ヨリ三月末日迄貸與
 隨時破損ヲ補ヒ交換ス
 毎年破損ヲ補ヒ交換ス

品名	品質	數量	新品貸與時期	交換期間	備考
枕	三州木綿	一	同	同	同
兵	同	一	同	同	同
帶	黑新モス	一	七月頃給與	二ヶ年	昭和十年新調
猿股	更沙木綿	一	同	同	同
腰	メリヤス	一	同	同	同
足	夏冬天竺木綿	一	同	同	同
手拭	コール天石底	三	同	同	同

備考
 一、右ノ外病衣看護衣及蚊帳ハ必要ニ應シテ貸與時々修繕。
 二、新調品ハ其ノ年ノ定員數ダケ準備ス。
 三、使用期間ノ滿チタル物ハ新品貸與ト同時ニ返納セシメ其ノ内比較的破損程度ノ輕微ナルモノハ消毒洗濯ノ上修理ヲ加ヘテ保管シ置き使用期間ノ滿チタルモノモ破損品汚損品ハ隨時修理品ト交換シ同シク消毒洗濯ノ上保管シ置ク。
 四、洗濯ハ各自出來得ルモノハ成ルヘク各自之ヲナサシメ居ルモ重症者ノ被服洗濯ハ輕症患者洗濯人ヲシテ之ヲナサシム。
 五、新調ト修理裁縫トハ女患者中出來得ルモノハ何人ニモ之ヲナサシム。
 但新調ハ仕立ヲ裁縫人(備人)ニ縫上ケテ患者ニナサシム、小破修理ハ患者中裁縫人十二名ヲ置キ從事セシム。
 六、入院ノ際ノ携帶私物衣類ハ消毒ノ上費澤ニ涉ラサル限リ其儘使用セシム。

口食物

主食品

- 一、粥 食 一人一食白米百瓦約七勺宛ノ割ニテ支給ス。
- 二、普通食(半搗米日方七分)
一人一日平均分量約四六八瓦四合
但四大節其他特別御馳走ノ日ニハ一食分若ハ二三食分ヲ白米飯ヲ正月三ヶ日ハ一食分併
ヲ給ス。
- 三、精米精麥作業 十馬力電動機ニ依ル精米機押麥製造機械ニテ患者ニ作業セシム玄米、大麥
ハ各府縣ニ於テ生産移出検査シタル而モ品質等級及數量ノ明瞭ナルモノヲ購入シ居レリ
從ツテ製品ノ購買ヨリ經費ノ節約ヲナスコトヲ得。

副食物

- 一、概 況 野菜物ヲ主トシ魚類、豆腐類、肉類及漬物類之ニ次ギ其ノ他雜品ニシテ朝ハ毎日味
噌汁ヲ與フ。
- 二、重症室患者ノ副食物 大體普通食ト同一ナルモ普通食ノ鹽魚ナル時ハ鮮魚若ハ鶏肉ヲ給
シ澤庵菜漬類ナル時ハ金山寺味噌、梅干若ハガンモドキ等ヲ給ス、猶重症者ニハ滋養品トシ
テ牛乳、鶏卵、葛粉砂糖等ヲ給ス、其人員ハ毎日平均百八十人位ナリ。
- 三、御馳走 祝祭日、五節旬、本院記念日、宗教上ノ諸儀式日其他特殊ノ催アル日ニハ院内飼育ノ
豚、鶏ヲ調理シテ與ヘ、又鰻、刺身、壽司、章魚、牡丹餅、赤飯其他ヲ給與ス、尙間食トシテ汁粉、草餅、甘

酒、果物、菓子、甘藷等ヲ給スルコトアリ。
四、院内生産品 精米、押麥、豆腐製造ノ外患者ノ手ニ依ル院内生産ニ野菜類、豚、牛乳、鶏及鶏卵等
アリ之等ノ生産品ハ患者慰安會ノ手ヲ經テ病院之ヲ購入シテ患者ニ支給ス。
本年中ニ於テ患者ノ手ニ依リ生産供給シタル高ヲ表ニ示セバ

品 目	數 量	價 格	品 目	數 量	價 格
野 菜	101,956.00	3,329.89	豚	21,960.00	878.40
牛 乳	1,101,610	1,952.43	茶	4,837.5	314.54
鶏 卵	110,600	83.10	合 計	1,113,053.5	8,413.74
	1,933,000	1,855.28			

五、魚類ノ一部ハ安房鴨川ヨリ直接購入シ野菜類ハ附近生産者及當業者ヨリ大麥ハ埼玉縣ヨ
リ購入ス食糧品購入ニ對シテハ榮養價品質價格等ノ研究ヲ常ニ怠ラズ最良ノ方法ヲ講ジ
居レリ。

調理

主副食物ノ調理配給ハ共ニ職員ノ炊夫之ニ當ル而シテ患者飼育ノ豚若クハ多量ノ鶏ヲ屠
ル時其他特ニ手數ヲ要スル献立ノ際ハ患者ヲシテ別ニ設ケタル患者炊事場ニテ一部若ク
ハ全部ノ調理ニ當ラシム。

食費

昭和十一年度ノ食費豫算ハ定員一、二〇〇人一日一人當一九錢五厘ナリ而シテ本年延人員

ハ四四二、二二五人ニシテ一日平均一、二〇九人トナリ、瀨豫防協會患者二七人、外島保養院委託患者六二人ヲ除キタル二〇人ハ即チ豫算超過ニシテ之カ延人員ハ七三〇〇人トナルヲ以テ一ケ年一、四二三圓餘ノ不足ヲ生ス可ク加フルニ物價ハ日々騰貴スル一方ナレバ本年度末ニ近クニ從ヒ豫算ニ不足ヲ生セシメサル様苦心ヲ重ネツ、アリ。

今昭和十一年中食費經理ノ實情ヲ表示セハ左ノ如シ。

主 食 物	副 食 物	滋 養 料	燃 料	昭和十一年		一人一日當平均	
				數量	金額	數量	金額
				二一〇三六七	四、五六一二〇	四七六	〇〇九四二
					三、五三三〇一八		〇〇七六〇
					二、九四七八〇		〇〇〇六七
					四、七九三三〇		〇〇〇八五
				八、八一、九三三八			〇一八五四
合 計							

給食延人員四四二、二二五人(瀨豫防協會及外島委託患者ヲ含ム)

一般社會ニ生活スル人々ハ自由ノ天地ニ在リテ種々ノ快樂慰安ヲ享ケ得ラル、モ社會ト全然離隔シタル此小天地ヲ一生ノ住家トセサルベカラザル患者ニ取リテハ食物ハ唯一無二ノ慰安ナルベキコトヲ思フ時此ノ貴重ナル豫算ヲ一層有意義ニ運用スヘキモノトス。

二、慰安及娛樂

由來瀨ハ慢性難治ノ疾患トセラル、カ故ニ患者ハ稍々モスレハ精神ノ動搖悲觀ニ陥リ易ク自然ニ信仰ヲ欲求シテ各宗教ニ歸依スル者多シ而シテ本院ニ於テハ各患者ノ信仰ノ自由ヲ認メ各

宗教々師ハ院内禮拜堂ニ於テ特定ノ日ニ布教慰問セラレ全患者ヲ各宗教別ニスレバ佛教徒ニ屬スル者九二一名内眞宗三九六名、日蓮宗三一五名、眞言宗二一〇名、基督教ニ屬スルモノ一八六名何レノ宗教ニモ屬セサルモノ二五名ナリ、而シテ眞宗ハ大谷派本願寺ヨリ、日蓮宗ハ同宗務院ヨリ、眞言宗ハ高野山金剛峯寺ヨリ、毎月布教師ヲ派遣シ基督教ハ好善社ヨリ、毎月二回日本M.T.I.ヨリハ毎月一回宣教師ヲ定期派遣サル、各教團ハ教典ノ研究暗誦ニ熱心ナルノミナラス其ノ派ニ屬スル重症者極貧者ヲ慰安看護シ同病相憐ノ實ヲ擧ケツ、アリ、而シテ祝祭日宗祖ノ記念日ニハ全職員患者擧ツテ一堂ニ會シ和氣霽々タル中ニ之ヲ祝フノ風アルハ本院ノ誇トスル所ナリ。

宗教家ノ外社會教育家社會事業家其他多數ノ名士各種ノ藝術ニ堪能ナル諸氏ノ慰問近年益々多キヲ加ヘツ、アルコトハ患者慰安上頗ル悦ブベキコトナリ、其他患者ノ春秋ニ催ス芝居、碁將棋、庭球、野球、卓球等ノ運動競技、餅搗花祭、青葉祭、盆踊、クリスマス、會式、報恩講、詩歌、俳諧等ノ諸會ハ單調無味ナル療養生活ニ多大ナル慰安ヲ與ヘテ居ル、其他浪花節講談、芝居、映畫等ヲ開催シ又蓄音機ラデオ等ノ設備アリ。

之等ノ慰安娛樂ノ事業ハ大部分管理知事ヲ會長トスル第一區府縣立全生病院患者慰安會ノ出資補助ニヨルコトハ本院當事者ノ常ニ感謝措ク能ハザル所ナリ。

更ニ又患者ニシテ病重リ失明或ハ手足麻痺脱落シテ自己ノ起居サヘ不自由ナルモノ又ハ合併症ノ爲メ久シク病床ニ呻吟スルモノ、多クハ何レヨリモ小遣ヲ受クル途アラザルヲ以テ之等不幸ナル人々ヲ慰安救済センカ爲ニ昭和六年四月財團法人全生互惠會ヲ組織セリ、本會ハ畏クモ昭和五年十一月十日 皇太后陛下ノ御仁慈ニ依ル御下賜金ヲ基礎トシテ設立サレシモノニシテ購

買部農産部印刷部工藝部裁縫部牧畜部等ヲ經營シ此ノ利益ヲ前記ノ目的ニ充ツ。之ニ依ツテ重症者ノ慰藉セララル、コト實ニ大ナリコレ偏ニ陛下ノ御仁德ノ賜ニシテ誠ニ有難キ極ナリ。

又最近財團法人瀨防協會ヨリラヂオ、オルガン其他運動、音樂、演藝フキルム等ニ關スル器具ヲ寄附セララル、コトハ誠ニ感謝ニ堪エサル所ナリ。

三、風紀

開院當時ニ在リテハ大部分浮浪患者ナリシヲ以テ風紀上遺憾ノ點少カラサリシカ漸次院内生活ニ親ミ來レルト同時ニ患者收容力ノ増大スルニ從ヒ聯合府縣各地方ノ自宅ヨリ入院スルモノ次第ニ増加シ風紀ハ遂次改善セラレ逃走ノ第一原因ト見做サル、賭博ノ如キモ大正八年以來全ク根絶シテ多年ノ陋習ハ一掃セラレ眞ニ平和ナル一大家族ヲ建設スル状態ニ至レリト言フモ過言ニアラサルナリ。

四、教育

開院以來患者中無教育者多カリシヲ以テ患者中教育ニ經驗アルモノヲ選ビ教師トナシ、普通教育ヲ施シ來リシカ近年兒童ノ入院數増加シ約六十名ヲ越エルニ至リシヲ以テ此等年少者ニ對スル教育ニツキ深ク考慮シ數年前ヨリ職員中教育ニ經驗アル者ヲシテ其ノ任ニ當ラシメ小學校ノ教科ニ準ジテ教授シツ、アリシカ昭和六年度ニハ新ニ七十坪ノ教育舎ヲ建築シ且ツ其ノ設備モ稍々充實セシヲ以テ全生學園ト稱シ町村立小學校ト殆ンド大差ナキ教育ヲ施シ得ルニ至レリ、而シテ學園小學校卒業者ニシテ更ニ勉學ノ志アルモノ、又ハ年少時發病シ勉學ノ機會ヲ失ヒタル中

年患者ノ爲補習科ヲ設置シ以テ知識ノ向上人格ノ陶冶ニ努メツ、アリ。

嘗テハ一丁字ナカリシ者モ次第ニ向上シテ郷里ノ父母兄弟ト音信ヲナスニ至リ又和歌俳句ヲ理解創作シ各種ノ新聞雜誌ニ投稿シ入選スルモノ尠カラズ。

更ニ學校教育以外ニ青少年、少女團ヲ組織シ之ニヨリ青少年少女ヲシテ規律アル生活ヲ爲サシム、即チ青年團ヲ以テ消防隊ヲ組織シ訓練操作ヲナサシメ、青少年少女團ニハ訓練奉仕作業ヲナサシメ大ナル効果ヲ收メツ、アリ。

院内圖書館ハ本院見學ノ學生諸氏及特志家ノ寄附ニ依リ漸次充實シ圖書ノ閱讀及稗史小説ノ貸出ヲ爲セリ之ニ依リ多數ノ盲目患者ハ團欒シテ小説ノ朗讀ヲ聞ク事ヲ樂ミノ一トナシ居レリ。又互惠會印刷部ヨリハ「山櫻」「芽生」呼小鳥「武藏野短歌等」月刊雜誌或ハパンフレットヲ發行シテ各患者ノ詩歌文章ヲ掲載シ院内患者ノ慰安ニ供シ他外部ニ對シテハ院内平和ノ生活ヲ記述シテ社會ノ理解ト同情ヲ得ルニ努メ以テ瀨ノ豫防宣傳ニ資セリ。
患者教育程度 (入院當時ノ調査ニ依ルモノ)

教育別	教育程度		計	教育程度		計
	男	女		男	女	
無教育ノ者	五三	九四	一四七	一七三	二〇	一九三
多少文字ヲ知ル者	三〇	一五	四五	一六	九	二五
尋常小學程度	一九三	一〇二	二九四	八	五	一三
同卒業程度	二二〇	一〇一	三二一	三	一	四
高等小學程度	八三	九	九二	七七七	三五五	一一三二
合計						

年報

年	三六年	三五年	三四年	三三年	三二年	三一年	三〇年	二九年	二八年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	三二二	四三一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	六二四	六六六	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
	九三六	一〇三七	五一一	六二四	三一二	二五六	二九九〇	九九〇	三三八
年	四五年	四四年	四三年	四二年	四一年	四〇年	三九年	三八年	三七年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	五三二	七二五	三一二	二二二	六二四	四三一	四一三	五二三	三三三
	五三二	八三五	三一二	五五五	七二五	六五一	五二三	八三五	七三四
年	五六年	五五年	五二年	五一年	五〇年	四九年	四八年	四七年	四六年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

六七

年	一一年	一〇年	九年	八年	七年	六年	五年	四年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	七四三	四二二	二二二	四三一	二二二	一一一	一一一	一一一
	八二七	六四二	二九二	六三三	四一三	一一一	一一一	一一一
	二九五	二〇八	一三三	三三九	二二二	一一一	一一一	一一一
	四一〇	三六三	二九二	三〇三	二〇五	四一三	二二二	二二二
年	九年	八年	七年	六年	五年	四年	三年	二年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	六二四	六四一	七二五	〇五五	一六五	八三五	五五二	三三三
	四二二	六四一	七二五	〇五五	一六五	八三五	五五二	三三三
	五二九	五三八	五二八	五九一	五二七	五〇三	五三九	五〇三
年	二七年	二六年	二五年	二四年	二三年	二二年	二一年	二〇年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

備考 本籍不明欄中朝鮮人男十名女一名ヲ含ム。
三、現在患者發病年齡別表

(昭和十一年末現在)

六六

年	年	性體	病型		
			斑紋癩	神經癩	結節癩
八	年	計女男			
九	年	計女男			
十	年	計女男			

備考 本表ノ他癩疑似症男二名女一名アリ
五、現在患者病型年齢別表

(昭和十一年末現在)

年	年	性體	病型		
			斑紋癩	神經癩	結節癩
一三	年	計女男			
一〇	年	計女男			
九	年	計女男			
八	年	計女男			
七	年	計女男			
二	年	計女男			
一	年	計女男			
合計					

年	年	性體	病型		
			斑紋癩	神經癩	結節癩
二	年	計女男			
一	年	計女男			
四	年	計女男			
三	年	計女男			
六	年	計女男			
五	年	計女男			
合計					

備考 本表ノ他癩疑似症女一名アリ
四、患者發病ノ時ヨリ療養所入所迄ニ至ル經過年數別表

(昭和十一年中)

年	年	性體	病型		
			斑紋癩	神經癩	結節癩
六二	年	計女男			
六一	年	計女男			
六〇	年	計女男			
五九	年	計女男			
五八	年	計女男			
六八	年	計女男			
六七	年	計女男			
六六	年	計女男			
六四	年	計女男			
六三	年	計女男			
合計					

年報

年	四七年	四六年	四五年	四四年	四三年	四二年	四一年	四〇年	三九年	三八年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
病										
型										
計										
年	五七年	五六年	五五年	五四年	五三年	五二年	五一年	五〇年	四九年	四八年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
病										
型										
計										
年	六七年	六六年	六五年	六四年	六三年	六二年	六一年	六〇年	五九年	五八年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
病										
型										
計										

七一

年	一九年	一八年	一七年	一六年	一五年	一四年	一三年	一二年	一一年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
病									
型									
計									
年	二八年	二七年	二六年	二五年	二四年	二三年	二二年	二一年	二〇年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
病									
型									
計									
年	三七年	三六年	三五年	三四年	三三年	三二年	三一年	三〇年	二九年
計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男	計女男
病									
型									
計									

七〇

死因病類別	性體		
	計女	計男	計女男
丹毒			
敗血症			
心臟麻痺			
五歲迄			
五以上十歲迄			
五以上十歲迄			
十以上十六歲迄			
二歲二歲以上			
三歲三歲以上			
三歲三歲以上			
四歲四歲以上			
四歲四歲以上			
五歲五歲以上			
五歲五歲以上			
六歲六歲以上			
六歲六歲以上			
七歲七歲以上			
合計			

七、死亡患者病名年齡別表

(昭和十一年中)

合計	開院以來				合計
	計女	計男	計女	計男	
斑紋癩					
神經癩					
結節癩					
合計					
五歲迄					
五以上十歲迄					
五以上十歲迄					
十以上十六歲迄					
二歲二歲以上					
三歲三歲以上					
三歲三歲以上					
四歲四歲以上					
四歲四歲以上					
五歲五歲以上					
五歲五歲以上					
六歲六歲以上					
六歲六歲以上					
七歲七歲以上					
合計					

病型	昭和十一年			性體
	計女	計男	計女男	
斑紋癩				
神經癩				
結節癩				
合計				
五歲迄				
五以上十歲迄				
五以上十歲迄				
十以上十六歲迄				
二歲二歲以上				
三歲三歲以上				
三歲三歲以上				
四歲四歲以上				
四歲四歲以上				
五歲五歲以上				
五歲五歲以上				
六歲六歲以上				
六歲六歲以上				
七歲七歲以上				
合計				

六、死亡患者病型年齡別表

備考 本表ノ他癩疑似症女一名アリ

病型	昭和十一年				性體
	計女	計男	計女	計男	
斑紋癩					
神經癩					
結節癩					
合計					
五歲迄					
五以上十歲迄					
五以上十歲迄					
十以上十六歲迄					
二歲二歲以上					
三歲三歲以上					
三歲三歲以上					
四歲四歲以上					
四歲四歲以上					
五歲五歲以上					
五歲五歲以上					
六歲六歲以上					
六歲六歲以上					
七歲七歲以上					
合計					

院内社會事業團體

年別	昭和八年		昭和九年		昭和十年		昭和十一年		合計	性別	別種
	計	女	計	女	計	女	計	女			
入	有料	入	入
	無料		
所	有料	所	所
	無料		
退	有料	退	退
	無料		
計	有料	計	計
	無料		
中延數	有料	中延數	中延數
	無料		

第八 一時救護所概況

以テ法團三井根恩會ヨリ寄附ノ重症舍一棟六十坪輕症舍三棟一五坪並ニ初度調辨設備百人分ヲ
 一時救護所ニ充ツルコト、爲シ聯合府縣並ニ警視廳ト協議シ七月之ヲ開設セリ
 本年中之於ケル取扱件數ヲ示セバ左ノ如シ

年別	昭和十一年		性別	別種
	計	女		
入	有料	...	入	入
	無料	...		
所	有料	...	所	所
	無料	...		
退	有料	...	退	退
	無料	...		
計	有料	...	計	計
	無料	...		
中延數	有料	...	中延數	中延數
	無料	...		

第一區府縣立全生病院患者慰安會規則

(天正三年十一月七日創立)

主 旨 書

癩病ハ古來遺傳病トシテ久シク顧ミラレサリシカ近來ニ至リ該病ハ彼ノ結核梅毒ト等シク危險ナル慢性ノ傳染性疾患ニシテ其醜惡ナル病竈ヨリ放散スル病毒ノ多大ナルコト普ク認承セララル、ニ至リ明治四十年政府ハ癩豫防法トシテ法律第十一號ヲ發布シ先ツ赤貧ニシテ自ラ療養スル能ハサル患者ヲ隔離收容スルノ目的ヲ以テ全國五ヶ所ノ療養所ヲ設立スルニ至レリ第一區府縣立全生病院ハ實ニ其一ニシテ所澤ヲ東ニ距ルコト里許東京府下北多摩郡東村山村ニ在リ目下東京、神奈川、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、愛知、静岡、山梨、長野ノ一府十一縣ヨリ送致セラレタル患者四百人ヲ容ル是等ノ患者ハ幸ニ官給ノ衣食住ニヨリテ何ノ不自由ナク加之出來得ル丈ノ治療ヲモ施サレ居リ患者ニ取リテハ一見此上ナキ樂天地ナルカ如キモ如何セン彼等ノ病ハ已ニ膏盲ニ入り現今ノ文明醫術ヲ以テシテモ未タ全治セシムルノ域ニ達セス從テ彼等ハ將來ニ於テ退院ノ希望ヲ發見スル能ハス空シク此狹隘ナル小天地ニ於テ無味單調ナル生涯ヲ終ハラサルヘカラス實ニ惘然ノ至リナラスヤ蓋シ國家カ癩病撲滅ノ爲メ犧牲トシテ彼等ノ自由ヲ拘束スル以上ハ彼等ノ慰安ニ努ムルハ勿論ニシテ全生病院ニ於テモ其設備ハ略ホ備ハレリト雖モ經費ニ一定ノ制限アリ充分ニ慰安ノ目的ヲ達スル能ハサルハ深ク遺憾トスルモノ、如シ若シ夫レ大方ノ慈善家ニシテ溢ル、カ如キ同情ヲ彼等ニ注カンニハ彼等ノ心中ノ喜ヒヤ蓋シ測ルヘカラサルモノアラン然リ而シテ今回篤志家ノ贊助

ヲ得テ本會ヲ設立シ制限アル公費ノミニテハ充分ニナス能ハサリシ講話說教並ニ演藝ノ開催、作業ノ慰勞並獎勵、娛樂品ノ設備、物品ノ給與、患者攜帶兒ノ保護其他必要ト認ムル事業ニ對シ金品ヲ寄附シ以テ患者慰安ノ目的ヲ徹底セシメントス冀クハ大方ノ紳士淑女此不幸ナル患者ニ同情セラレ奮テ本會ノ會員トナリ應分ノ助力アラシムコトヲ望ム

大正三年十一月

第一區府縣立全生病院患者慰安會

第一區府縣立全生病院患者慰安會規則

- 第一條 本會ハ第一區府縣立全生病院患者慰安會ト稱ス
- 第二條 本會ハ第一區府縣立全生病院收容患者ヲ慰藉スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ノ事務所ヲ東京府北多摩郡東村山村第一區府縣立全生病院内ニ置ク
- 第四條 本會ハ患者慰安ノ方法トシテ左ノ事業ヲ爲ス
 - 一 講話說教並演藝等ノ開催
 - 二 作業ノ慰勞
 - 三 娛樂品ノ設備
 - 四 患者攜帶兒ノ保護
 - 五 患者慰安ノ爲必要ナル物品ノ給與

六 其ノ他必要ト認ムル事業

第五條 本會々員ハ名望家、慈善家ヲ以テ組織シ左ノ四種ニ分ツ

一 名譽會員 本會ノ事業ニ特殊ノ功勞アル者

二 特別會員 一時ニ金拾圓以上寄附ノ者

三 正會員 毎年金壹圓以上五ヶ年間寄附ノ者又ハ一時ニ金參圓以上寄附ノ者

四 贊助員 多少ニ拘ラス金品寄附ノ者

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ總テ無報酬トス但シ書記ニハ報酬ヲ與フルコトヲ得

會長 一名 副會長 一名 顧問 若干名

評議員 若干名 幹事 若干名 書記 若干名

第七條 會長ニハ東京府知事ヲ推ス

副會長ニハ東京府學務部長ヲ推ス

顧問ニハ第一區域聯合府縣地方長官ヲ推ス

評議員ハ第一區域聯合府縣並其ノ他必要ト認ムル處ニ置キ會長之ヲ囑託ス

幹事ハ會長之ヲ指名ス

書記ハ常務幹事之ヲ任免ス

第八條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

顧問ハ本會ノ經營ニ關シ意見アルトキハ會長ニ提出スルモノトス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ本會ノ重要事項ヲ議決ス

幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス

會長ハ幹事中ヨリ常務幹事壹名ヲ指名シ幹事ヲ代表シテ會務ヲ處理セシム

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 本會ニ委員若干名ヲ置キ會長之ヲ囑託シ會務擴張ノ事ヲ掌ラシム

第十條 本會ハ毎年一回評議員會ヲ開ク但シ會長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十一條 本會ハ毎年一回幹事會ヲ開ク但シ必要アルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得

第十二條 評議員會及幹事會ハ會長之ヲ召集ス

第十三條 幹事會ニ於テハ左ノ事項ヲ議決ス

一 本會毎年ノ歳入出豫算

二 本會諸規則ノ改正

三 其ノ他必要ト認ムル件

第十四條 評議員會又ハ幹事會ノ議長ハ會長之ニ當リ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス總テ決議ハ出席者多數ノ意見ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 本會經費ハ寄附金及其ノ利殖金ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 本會ノ會計年度ハ四月ヨリ起リ翌年三月ニ終ルモノトス

常務幹事ハ毎年度會計收支決算書ヲ作り會長ノ決裁ヲ經テ評議員會ニ提出スヘシ

第十七條 會員ハ何時ニテモ會計帳簿ヲ閲覽シ且本會ノ事業其ノ他ニ付テ意見ヲ述フルコトヲ得

第十八條 金員並物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ謝狀ヲ送り氏名及目錄ヲ簿冊ニ登載シテ永久ニ保存ス

第十九條 物品現金並有價證券ハ常務幹事之ヲ保管ス但シ現金並有價證券ハ郵便局又ハ確實ナル

銀行ニ預金スルコトヲ得

第二十條 本會經費ニシテ殘餘ヲ生シタル場合ハ本會基本金ニ編入ス

第二十一條 本院ノ廢止又ハ都合ニ依リ本會ヲ解散スルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ現在ノ金品ヲ

他ノ慈善事業ニ寄附ス

●財團法人全生互惠會

(昭和六年二月十一日創立)

六

一、事業要項

第一項 相互扶助作業ノ獎勵及援助

本院ハ開院當初ヨリ一大家族主義ニ立脚シ相互扶助精神ノ涵養ニ努メシ結果現在千五十餘名ノ患者ハ恰モ一家族ノ如ク身ハ悲惨極リナキ病魔ト闘ヒツ、家族ノ一員トシテ重症者ノ看護ニ或ハ公益事業ニ或ハ精神修養ニ關スル種々ナル事業ニ從事セリ然レトモ病重キニ至レハ多年功績顯著ナリシモノト雖モ之レヲ願ミル者ナク空シク病床ニ悶々トシテ生ヲ終ルヲ常トス本會ハ斯クノ如キ功勞者ニ對シ社會ニアル恩給制度ニ準ス可キモノヲ設ケ聊カナカラ其ノ功績ヲ推賞シ以テ將來此ノ種ノ事業ニ從事スルモノヲ獎勵援助シ他面相互扶助精神ノ向上ニ努メ以テ 皇太后陛下ノ優渥ナル思召ニ副ヒ奉リ兼ネテ本院ヲシテ理想的療養所タラシメンコトヲ期スルナリ。

第二項 重症患者ノ慰安及救濟

本院ニ現在收容セル患者千五十餘名中大部分ハ生家貧困ニシテ彼等ノ必要トスル金品ノ送付ヲ受クル能ハサルナリ。然レトモ未タ病輕症ナルモノハ院内諸作業ニ從事シ日々三錢乃至六錢ノ慰勞金ヲ受クルモ重症ニシテ收容當時ヨリ病室ニ吟呻シ作業ニ從事シ能ハサルモノ或ハ從來作業ニ從事セシモ一度重症トナリ長ク病床ニ臥シテ再ヒ立ツ能ハサルモノ或ハ失明シテ咫尺ヲ辨セサルモノ或ハ手足麻痺脱落シテ自己ノ起臥スラ自由ナラサルモノ、或ハ肺結核心臟病腎臟病等ノ如キ合併

症ノ増悪シタルモノ或ハ癩性熱衰弱ノ甚シキモノ等カ長ク病床ニ看護ヲ受ケ囊中一錢ノ貯ヘナキニ至リタルニ於テハ其ノ心細サト周圍ノ稍富メルモノヨリ受クル刺戟ニ依ル痛苦トハ到底想像スル能ハサルナリ。而シテ之等重症患者四百名中差當リ救濟ヲ要スルモノ約二百五十名ニ達ス之等要救患者ニ毎月若干ノ小使ヲ支給シテ物質的慰安ヲ與ヘ引イテハ之ヲ精神慰安ニ及ホシ將來全患者ノ大部分カ陷ル可キ失明重症ノ運命ニ對スル煩悶焦躁憂慮ノ念ヲ去リ安心立命ノ境地ニ達セシメントスルモノナリ。

第三項 農業其ノ他產業ノ經營及獎勵

耕作及牧畜ハ患者ニ對シ唯一ノ持久的慰安作業ニシテ此レニ依リテ新鮮ナル野菜及肉類、鶏卵、牛乳等ヲ院内全般ニ供給シ、又其ノ他ノ手工製作品ハ目下院内自給ヲ主眼トスルモ將來若シ生産多量ニシテ消毒可能ナル場合ニ至レハ院外ニモ供給スルニ至ラシメントスルモノナリ。

第四項 賣店ノ經營

本院ノ賣店ハ所謂消費組合ニ類似スル組織ナリ。即チ過去十數年間公費ノ及ハサル患者日用雜貨ハ小賣商人ノ手ヲ經テ購入セシモ中間商人ヲ利スルノミニシテ患者ハ高價ニシテ疎惡ナル物品ヲ入手シ且ツ商人ハ永續セス種々ノ不便尠カラス故ニ昭和三年五月患者共有金若干ヲ資本トシ賣店ヲ開キ商品ヲ大量ニ購入セシメ會長監督ノ下ニ患者ヲシテ販賣ノ任ニ當ラシメシナリ。然ルニ近來一ヶ月千八百圓以上ノ賣上ケアリテ純益約一割ヲ上クルコトハ容易ナリ。此ニ本會ハ此ノ賣店ノ權利義務ヲ繼承シ以テ全患者ヲ利セントスルモノナリ。

第五項 印刷出版及學藝ノ獎勵

本會ハ山櫻芽生等數種ノ月刊雜誌及「パンフレット」ヲ發行シ以テ院内患者ノ文藝ニ依ル慰安並ニ精神の向上ヲ計リ外部ニ對シテハ院内ノ平和ナル生活ヲ記述シ社會ノ同情ト理解ヲ得ルニ努メ以テ癩ノ豫防宣傳ニ資スル所有ラントス。

第六項 其ノ他理事會ノ決議ニ依リ必要ト認メタル事項

上述セル第一乃至第五項以外ニ理事會ノ決議ニ基ツキ必要ト認メタル事業ヲ行ヒ以テ院内ニ於テハ本會所期ノ同病相憐相互扶助ノ實ヲ舉ケ院外ニ於テハ癩豫防運動ノ一助トナリ本病カ一日モ早クコノ光輝アル日本ノ國土ヨリ絶滅センコトヲ期スルモノナリ。 以上

二、寄附行爲

第一章 名 稱

第一條 本會ハ財團法人全生互惠會ト稱ス

第二章 目的及事業

第二條 本會ハ皇太后陛下御仁慈ノ思召ヲ體シ第一區府縣立全生病院收容患者相互扶助ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トス
第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ
一、相互扶助作業ノ獎勵及援助
二、重症患者ノ慰安及救濟

三 農業其他産業ノ經營及獎勵

四 賣店ノ經營

五 印刷出版及學藝ノ獎勵

六 其ノ他理事會ノ決議ニヨリ必要ト認メタル事項

第三章 事務所

第四條 本會ハ事務所ヲ第一區府縣立全生病院内ニ置ク

第四章 資産會計及贊助員

第五條 本會ノ資産ハ皇太后陛下御下賜金諸般ノ寄附金及全生病院收容患者ノ設立シタル農會

試作部全生賣店山櫻俱樂部互惠部ヨリ寄附セラレタル別紙目錄ニ掲クルモノトス（別紙略ス）

第六條 本會ハ理事會ノ決議ヲ經テ基金ヲ設クルコトヲ得

基金ハ理事五分ノ三以上ノ同意ヲ得會長ノ承認ヲ得ルニアラサレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第七條 本會ハ理事會ノ決議ニヨリ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第八條 本會ノ資産中現金ハ郵便官署其ノ他確實ナル銀行又ハ信託會社ニ預入レ若クハ國債證券

又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ利殖ヲ圖ルモノトス

但シ特別ノ事情アル場合ニハ理事會ノ決議ニヨリ不動産ヲ購入スルコトヲ得

第九條 本會ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第十條 本會ノ事業翼賛ノタメ寄附セラレタル金品ハ之ヲ受領シ其ノ金員ハ之ヲ基金ニ編入ス

但シ理事會ノ議決ニヨリ其ノ一部ヲ經費補充積立金ニ編入スルコトヲ得

寄附ノ目的ヲ指定シタルモノハ其ノ用途ニ充ツ

第十一條 毎會計年度ノ終ニ於テ剩餘金アルトキハ基金ニ編入ス
但シ剩餘金ノ一部ニ限リ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十二條 本會ノ豫算ハ毎年度理事會ノ議決ニヨリ之ヲ定メ決算ハ理事會ノ認定ヲ經ルモノトス

第十三條 本會ノ會計年度ハ毎年五月一日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第十四條 本會ノ事業ヲ翼賛スルモノハ之ヲ賛助員ト稱ス

第五章 役員

第十五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會長 一名

二 副會長 二名

三 理事 若干名

四 監事 若干名

第十六條 會長ハ第一區府縣立全生病院長ノ職ニアルモノトス

副會長ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐ス會長事故アルトキハ豫メ指定シタル順序ニヨリ之ヲ代理ス

會長副會長ハ理事トス

第十八條 理事ハ之ヲ分チテ二種トス

一 甲理事ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ選任ス

二 乙理事ハ第一區府縣立全生病院收容患者中ヨリ會長副會長合議ノ上之ヲ選任ス

第十九條 甲乙理事ノ人員ノ割合ハ會長ノ決スル所ニ依ル

但シ甲理事十八名乙理事十二名以内トス

第二十條 對外問題ノ生シタルトキ乙理事ハ一切ノ權限ヲ甲理事ニ委任スルコトヲ要ス

第二十一條 監事ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第二十二條 理事及監事ノ任期ハ一ケ年トス但シ再任ヲ妨ケス補缺者任期ハ前任者ノ殘任期間ト

ス

第二十三條 理事及監事任期滿了ノ場合ニ於テ其ノ後任者ノ就職スル迄ハ仍前任者ニ於テ其ノ職

務ヲ行フモノトス

第二十四條 本會ニ事務員若干名ヲ置ク

第二十五條 理事監事及事務員ニシテ其ノ職務上不都合ノ所爲アリタルトキハ會長直ニ之ヲ免ス

免職セラレタルモノハ再任スルコトヲ得ス

第六章 理事會

第二十六條 理事會ノ職務權限左ノ如シ

一 歳入歳出豫算ヲ定ムルコト

二 決算報告ヲ認定スルコト

三 不動産ノ購入又ハ處分ヲ議定スルコト

四 寄附行為ヲ變更シ及處務細則ヲ設定スルコト
五 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メ理事會ニ附議シタル事項

第二十七條 理事會ハ會長之ヲ招集ス
理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第二十八條 理事會ハ理事二分ノ一以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十九條 理事會ノ議決ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七章 附 則

第三十條 本寄附行為ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 將來此ノ寄附行為ノ條項ヲ變更セントスルトキハ理事總數三分ノ二以上ノ同意ヲ經テ且主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十二條 第十八條ニヨリ選任セラレタル理事就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第三十三條 農會試作部、全生賣店、山櫻俱樂部及互惠部ノ有スル權利義務ハ法人許可ノ日ヨリ本法
人ニ於テ之ヲ繼承スルモノトス

以上

關係法令

四 寄附行為ヲ變更シ及處務細則ヲ設定スルコト
五 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メ理事會ニ附議シタル事項
第二十七條 理事會ハ會長之ヲ招集ス

理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第二十八條 理事會ハ理事三分ノ一以上出席スルニテラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十九條 理事會ノ議決ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七章 附 則

第三十條 本寄附行為ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 將來此ノ寄附行為ノ條項ヲ變更セントスルトキハ理事總數三分ノ二以上ノ同意ヲ經
テ且主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十二條 第十八條ニヨリ選任セラレタル理事就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第三十三條 農會試作部全生賣店山櫻俱樂部及互惠部ノ有スル權利義務ハ法人許可ノ日ヨリ本法
人ニ於テ之ヲ繼承スルモノトス

以 上

關 係 法 令

關係法令

●癩豫防法 (明治四十年三月十九日)

改正 (大正五年三月十日 昭和四年三月二十七日
法律第二十號 法律第二十號
昭和六年四月一日 法律第五十八號)

第一條 醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消毒其ノ他豫防法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出ツヘシ其ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ

第二條 癩患者アル家又ハ癩病者ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第二條ノ二 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一 癩患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スルヲ禁止スルコト

二 古着、古蒲團、古本、紙屑、襤褸、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲサシメ又ハ其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲナスコト

第三條 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノヲ國立癩療養所又ハ

第四條ノ規定ニ依リ設置スル療養所ニ入所セシムヘシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ繰替支辨スヘシ

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指示シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲必要ナル療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第四條ノ二 國立癩療養所及前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ入所患者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

第五條 私立ノ癩療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ第二條ノ

第二號ノ規定ニ依リ從業禁止又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補給ス

ヘシ

第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

一 第二條ノ二第二號ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ物件ノ消毒又ハ廢棄ヲ爲ス場合ニ要スル諸費

二 入所患者（國立癩療養所入所患者ヲ除ク）及一時救護ニ關フル諸費

三 檢診ニ關スル諸費

四 其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費

第七條ノ二 本法ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ニ於テ負擔スヘキ費用ハ東京府伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第八條 國庫ハ第六條及第七條ノ規定ニ依ル道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑ヒアル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

癩ト診斷セラレタル者又ハ其ノ親族ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得

行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條 第一條ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ二ノ規定ニ依ル行政官廳ノ處分ニ違反シタルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

二

第十條ノ二 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十一條 醫師若ハ醫師タリシモノ又ハ癩豫防事務ニ關係アル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク業務上取扱ヒタル癩患者又ハ其ノ死者ニ關シ氏名、住所、本籍、血統關係又ハ病名其ノ他癩タルコトヲ推知シ得ヘキ事項ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外療養所ニ入所中又ハ第三條第二項及第三項ノ規定ニ依ル一時救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●癩豫防ニ關スル法律施行ノ件

改正（明治四十年十二月）
（勅令第三百五十二號）

（明治四十年八月三日）
（勅令第二百八十四號）

明治四十年法律第十一號中改正

法律施行期日ノ件（昭和六年七月十四日）
（勅令第八十號）

昭和六年法律第五十八號ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防ニ關スル法律ニ依ル

●國庫補助ノ件（明治四十年八月三日）
（勅令第二百八十五號）

明治四十年法律第十一號ニ依ル道府縣ノ支出精算額ニ對シ國庫ハ同法第八條ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

一 療養所創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費 二分ノ一

二 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル無籍者又ハ本籍不明者ノ救護費 二分ノ一

三 其ノ他ノ諸費 六分ノ一

四 私立ノ代用療養所ノ創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ニ對スル補助費 二分ノ一

五 私立ノ代用療養所ニ對スル其ノ他ノ補助費 六分ノ一

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩豫防法施行規則（明治四十年七月二十日）
（內務省令第十九號）

改正（明治四十三年六月）大正五年六月
（內務省令第二十四號）內務省令第六號

昭和二年十二月廿二日 昭和四年十一月
（內務省令第四十九號）內務省令第三十九號

昭和六年七月
（內務省令第十六號）

第一條 癩豫防法第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署

ニ之ヲ爲スヘシ

第二條 癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノアルトキハ警察官署ハ患者ノ所在、環境及病狀等ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタル場合癩豫防上必要ト認ムルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者又ハ其ノ同伴者若ハ同居者ニ對シ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長若ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二條ノ二 療養所ノ長ハ病毒傳播ノ虞アル癩患者ニシテ直接入所ヲ申出テタルモノアルトキハ特ニ必要ト認ムル場合ニ限り前條ノ規定ニ拘ラス之ヲ直ニ收容スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收容シタル場合ニ於テ療養所ノ長ハ國立癩療養所ニ在リテハ內務大臣道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第三條 第二條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ患者所在地道府縣ノ療養所又ハ國立癩療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 癩豫防法第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

當該地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘシ

第五條 癩豫防法第六條ニ依リ生活費ノ補給ヲ受ケヘキ者ハ左ノ

三

各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

- 一 従業ヲ禁止セラレタル者
 - 二 従業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル當時本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者
- 生活費ノ補給ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超エルコトヲ得ス
生活費補給ノ程度、方法及期間ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ム

第五條ノ二 療養所ノ長ハ入所患者ニ對シ左ノ懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

- 一 誹責
 - 二 三十日以内ノ謹慎
 - 三 七日以内常食量二分ノ一マテノ減食
 - 四 三十日以内ノ監禁
- 前項第三號ノ處分ハ第二號又ハ第四號ノ處分ト併科スルコトヲ得

第一項第四號ノ監禁ニ付テハ情狀ニ依リ國立癩療養所ニ在リテハ内務大臣道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ期間ヲ二箇月マテ延長スルコトヲ得

第五條ノ三 前條ノ外懲戒又ハ檢束ニ關シ必要ナル細則ハ國立癩療養所ニ在リテハ内務大臣、道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ療養所ノ長之ヲ定ム

第六條 癩預防法第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除クノ外療養所ニ入所中又ハ癩預防法第三條第二項及第三項ノ規定ニ依リ一時救護中死亡シタル癩患者ニシテ引取者ナキモノノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ一時救護中死亡シタル場合ヲ除クノ外同法中市町村長ノ職權ハ當該行政官廳之ヲ行フ

療養所入所中死亡シタル癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得

第八條ノ二 癩預防法第二條ノ二ノ行政官廳ノ職權ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和六年法律第五十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩患者療養所設置區域ニ關スル件

(明治四十年七月)

改正 (明治四十三年三月 昭和二年十二月廿二日)

(内務省令第二十號)

道府縣ハ左ノ區域ニ依リ其ノ區域内ニ於ケル癩患者ヲ入ラシムル爲必要ナル療養所ヲ設置スヘシ

第一 區域

東京府 (伊豆七島小笠原島ヲ除ク) 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣
千葉縣 茨城縣 栃木縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣

第二 區域

北海道 宮城縣 岩手縣 青森縣 福島縣 山形縣 秋田縣

第三 區域

京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 三重縣 岐阜縣 滋賀縣
福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣 和歌山縣

法 令

第四 區域

島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 德島縣 香川縣 愛媛縣

第五 區域

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●療養所ヲ建設管理スヘキ地方長官ニ關スル件

(昭和三年七月二十日)

(内務省告示第七十五號)

明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ヲ建設管理スヘキ地方長官ハ第一區域ニ在リテハ東京府知事、第二區域ニ在リテハ青森縣知事、第三區域ニ在リテハ大阪府知事、第四區域ニ在リテハ香川縣知事、第五區域ニ在リテハ熊本縣下所在ノモノハ熊本縣知事、沖繩縣下所在ノモノハ沖繩縣知事トス

●海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癩患者ノ取扱ニ關スル件

(明治四十年九月十四日)

(勅令 第二百九十四號)

海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル船舶ニ癩患者アル場合ニ於テ其ノ患者

外國人ナルトキハ地方長官ハ其ノ上陸ヲ禁止スヘシ但シ已ムコトヲ得サル理由アリト認ムルトキハ條件ヲ附シテ一時上陸ヲ許可スルコトヲ得

附 則
本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●癲癩養所職員制 (大正十年四月二十五日勅令第一五二號)

改正 (大正十年七月 同十二年一月 同十三年六月 第三三九號 第一〇號 第一四三號 同十五年三月 昭和二年九月 同四年五月 第四一號 第二九四號 第一三九號 同十年三月二十六日 同十年十月 同十一年七月 第三三〇號 第二九〇號 第二二六號)

第一條 本令ニ於テ癲癩養所ト稱スルハ明治四十年法律第十一號第四條第一項ノ規定ニ依リ設置スルモノヲ謂フ
第二條 癲癩養所ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

所 長	五 人	奏任官待遇
醫 長	專任 十九人以内	奏任官待遇
醫 員	專任 十二人以内	判任官待遇
調劑員	專任 十四人以内	判任官待遇
看護婦長	專任 八人以内	判任官待遇
看護長	專任 三人	判任

主 事 專任 五人以内 奏任官待遇
書 記 專任 二十四人以内 判任官待遇
所長ハ醫長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス
醫長、醫員、調劑員及看護婦長又ハ看護長ハ上官ノ命ヲ承ケ癲癩養所ニ關スル技術ニ従事ス
主事及書記ハ上官ノ命ヲ承ケ癲癩養所ニ關スル事務ニ従事ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國立癲癩養所官制 (昭和二年十月十一日昭和三年勅令第三〇八號 第二四二號)

昭和六年二月二十三日 昭和八年 昭和十年十月 勅令第一一號 第八九號 第二五〇號 第二五二號 第二八九號

第一條 國立癲癩養所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ癲癩患者ノ救護及療養ニ關スルコトヲ掌ル
第二條 國立癲癩養所ニ左ノ職員ヲ置ク

所 長	一 三人 奏 任
醫 官	專任 一人 奏 任
事務官	專任 二人 判 任
醫官補	專任 一人 判 任
書 記	專任 一〇人 判 任

同年十二月 同十四年十二月 同十五年五月 第三九九號 第三二五號 第一三三號 昭和六年五月 第一一四號

第一條乃至第八條及第十條第十一條略
第九條 待遇職員ノ俸給ハ別表ニ依ル但シ他ノ官職ニ在ルトキハ俸給ヲ給セス又ハ別表ニ掲クル最低金額ヨリ低キ俸給ヲ給スルコトヲ得

第十二條 本令ハ左ニ掲クル職員ニシテ高等官又ハ判任官ノ待遇ヲ受ケルモノニ付之ヲ準用ス
一 防疫職員官制ニ依ル職員
二 税關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員
三 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員
四 廳府縣衛生職員制ニ依ル職員
五 癲癩養所職員制ニ依ル職員
六 家畜防疫職員制ニ依ル職員
前項ノ規定ニ依ルノ外防疫醫檢疫臨時海港檢疫醫又ハ癲癩養所ノ醫長若ハ醫員ハ醫師免許證ヲ有スル者ヨリ、癲癩養所ノ調劑員ハ藥劑師免許狀ヲ有スル者ヨリ、檢疫獸醫又ハ防疫獸醫ハ獸醫免許狀ヲ有スル者ヨリ、廳府縣衛生技師又ハ衛生技師ハ其ノ職務ニ依リ各醫師免許證、藥劑師免許狀又ハ獸醫免許狀ヲ有スル者ヨリ、癲癩養所ノ看護婦長又ハ看護長ハ看護婦免許狀又ハ看護人免許狀ヲ

●地方待遇職員令 (大正九年八月十一日勅令第二百四十八號)

改正 (大正九年八月 同十年十二月 同十年四月 第三三二號 第五七一號 第一五四號 同十年七月 同十年十一月 同十三年六月 第三四〇號 第四三六號 第一四九號)

國立癲癩養所ノ名稱ヲ左ノ通り定ム
長 島 愛 生 園

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和六年三月三日 内務省告示第二十九號)
第三條 所長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ、内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
第四條 醫官ハ上官ノ命ヲ受ケ癲癩患者ノ救護及療養ヲ掌ル
第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
第七條 調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ従事ス
第八條 看護長及看護婦長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ看護ニ従事ス
第九條 國立癲癩養所ノ名稱ハ内務大臣之ヲ定ム

有スル者ヨリ之ヲ任用ス
(別表)

俸級	待遇別	奏任官待遇 職員年俸	判任官待遇 職員月俸
特別	俸	四、六五〇以下	一八〇以下
一級	俸	四、〇五〇	一四五
二級	俸	三、六六〇	一二五
三級	俸	三、四〇〇	一一〇
四級	俸	三、〇五〇	九五
五級	俸	二、七七〇	八五
六級	俸	二、四二〇	七五
七級	俸	二、一五〇	六五
八級	俸	一、八二〇	五五
九級	俸	一、六五〇	五〇
十級	俸	一、四七〇	四五
十一級	俸	一、三〇〇	四〇
十二級	俸	一、一三〇	

●癩ニ關スル消毒其他豫防法ノ件

(明治四十二年三月
内務省訓令第四十五號)

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シ久シク其ノ病性ヲ誤認セラレタルモ癩

菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタルモノニシテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁唾液潰瘍部ノ濃汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病毒ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノトス是ヲ以テ政府ハ明治四十年三月本病ノ豫防ニ關シ法律第十一號ヲ發布シ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ消毒其ノ他豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次其ノ根絶ヲ圖ラントス然ルニ本病ハ從來非傳染病ト思惟シ來レルト其ノ經過緩慢ニシテ長年月ニ渉ルヲ以テ縱令外部ヨリ督勵ヲ嚴ニスト雖一般人民ヲシテ自衛ノ道ヲ講セシメ又患者並家人ヲシテ公德ヲ重ンセシムルニ非サレハ隱微ノ間ニ於テ病人ノ散漫ヲ來タシテ所期ノ目的ヲ達センコト容易ナラス依テ一般人民ニ對シテ常ニ本病ノ性質豫防ノ方法等ヲ訓諭シ之カ透導ヲ怠ラサルハ勿論現ニ患者アル家ニ對シテハ特ニ左記各號ノ事項ヲ指示シ學校、病院、製造所、旅店、船舶等ニ於テ患者ヲ發見シ若クハ患者ヲ入ラシムルトキ亦之ニ準シ相當處置セシムル等本病豫防ノ效果ヲ收ムルニ努ムヘシ

内務大臣法學博士 男爵 平田 東助

癩ニ關スル消毒其他豫防方法

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ衣類寢具其ノ他日用器具等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セキル様注意スヘシ
- 三 患者ノ常用衣類敷布寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病毒ニ汚染シタル繻帶手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑襪襪類ハ焼却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ス外出セントスルトキハ清潔ナル衣服ヲ着用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繻帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食物具(金屬、陶器類ヲ除ク)玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其ノ他病毒傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用貸與又ハ授與セサルコト
- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常食衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 二 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 三 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 四 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 五 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 六 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 七 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 八 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 九 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 十 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 十一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 十二 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- 十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ接近シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ着用シ時々之ヲ消毒スルコト
- 十四 癩患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト
- 十五 消毒方法ハ明治三十年内務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

●癩患者汽車輸送賃金ニ關スル件

(大正十年七月二十九日内務省衛甲第一〇一
五號同省衛生局長ヨリ東京府知事ヘ通牒)

癩患者汽車輸送賃金ニ關シテハ從來後拂ノ取扱ヲ爲シツ、有之候處今回鐵道省ニ於テ現拂ニ改正相成候爲之カ取扱上支障有之旨申出ノ向モ有之候處右ハ原則トシテ現拂ニ改メタルモ警察官署ニ於テ現金支出上差支アリ其旨當該驛長ヘ申出テタル時ハ驛長ヨリ所屬長ヘ經同ノ上隨時後拂取扱ヲ爲シ得ル趣ニ付右ニ御了知相成度及通牒候也

●癩病患者鐵道連絡船輸送ニ關スル件

(明治四十二年三月二十六日發第四十一號ノ内)
(内務省衛生局長ヨリ東京府知事ヘ通牒)

癩患者鐵道乗車ノ件ニ關シテハ曩ニ及通牒置候處尙又鐵道連絡船ニ於ケル取扱ニ就キ御開合ノ向有之鐵道院ヘ照會候處汽車輸送ノ場合ニハ別ニ乗用車輛ヲ連絡シ又ハ一室ヲ仕切ル等普通旅客ト隔離スルノ便アルモ汽船ニハ右ノ餘地無之ヲ以テ汽車同様ノ取扱ハ致難キモ事情ノ許ス場合ニ限り可成便宜ヲ謀ル様可取計旨回答有之候爲念此段及通報候也

●第一區府縣立全生病院規程

(明治四十二年三月三十日)
(東京府訓令第十號)

改正 (明治四十二年九月 同四十二年十二月 同四十二年三月
訓令第二十九號 訓令第三十四號 訓令第三十三號
同四十二年八月 同四十二年九月 同四十二年十月
訓令第二十四號 訓令第三十號 訓令第三十二號
同四十四年九月 大正四年十月 昭和四年八月
訓令第三十一號 訓令第十號 訓令第二十號
昭和五年九月 昭和七年七月 昭和十年十一月二十一日
訓令第十五號 訓令第十二號 東京訓令第三十三號)

第一條 本院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 院長 一人
- 副院長 一人
- 主事 一人

- 醫師 八人
- 調劑員 四人
- 看護婦長 一人
- 看護長 一人
- 書記 七人

院長ハ院長ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 院長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス主事ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌リ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

醫師ハ院長ノ命ヲ承ケ醫務ニ従事ス
調劑員ハ院長ノ命ヲ承ケ調劑ニ従事ス

看護婦長及看護長ハ院長又ハ醫師ノ命ヲ承ケ看護ニ従事ス
書記ハ院長又ハ主事ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第三條 院長ハ左ノ事項ヲ專行ス

- 一 院務ニ關シ別段ノ規定アルモノノ外文書ノ往復ヲ爲スコト
- 二 職員ニ除服ヲ命シ又ハ請暇ヲ許スルコト
- 三 機關手雇員並備員ノ採用又ハ罷免ノコト
- 四 本院ニ對スル動産ノ寄附ニテ見積額五十圓未満ノモノノ受領及其ノ處分ヲ爲スコト
- 五 患者ノ入院限院及患者ヲ入ラシムヘキ療養所變更協議ニ關スルコト

- 六 患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關スルコト
- 七 院務ニ關シ出張ヲ爲シ又ハ職員若ハ雇員ニ出張ヲ命スルコト

但シ宿泊五日以上ニ渉ルモノハ知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス

八 墓地並ニ火葬場管理ニ關スルコト

九 看護人養成ニ關スルコト但シ看護人養成規則ニ付テハ知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 院長ハ職員ノ進退ニ關シ知事ニ具申スルコトヲ得

第五條 院長ハ處務細則其ノ他必要ナル規程ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 院長ハ變災又ハ異常事故アリタルトキハ知事ニ速ニ報告スヘシ
院長ハ患者逃走シタルトキハ患者送致府縣名、氏名、逃走年月日時、逃走ノ事由ヲ詳記シ速ニ知事ニ報告スヘシ患者歸院ノ場合亦同シ

第七條 院長ハ翌年度收支豫算材料ヲ調査シ毎年五月十五日限知事ニ差出スヘシ

第八條 院長ハ毎年度各科目毎ニ收支増減ノ理由ヲ詳記シタル決算書ヲ調製シ翌年度五月十五日限知事ニ差出スヘシ

第九條 本院執務時間ハ當廳ノ例ニ依ル但シ知事ノ認可ヲ得テ時限ヲ變更スルコトヲ得

第十條 本規程其ノ他特ニ命令ヲ以テ定メタルモノヲ除ク外當廳ノ例規ヲ準用ス
第十一條 本規程ハ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

●第一區府縣立全生病院雇員退職

給與金支給規則 (大正十四年九月二十九日)
(東京府訓令第十九號)

改正 (昭和四年八月二十二日 同七年九月 同十年十一月七日)
(東京府訓令第二十三號 第十六號 第三十二號)

第一條 在職一年以上ノ雇員又ハ在職五年以上ノ備員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職給與金ヲ支給ス但シ犯罪又ハ職務上ノ失態ニ依リ職ヲ免セラレタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

- 一 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘズ退職シタルトキ
- 二 廢院廢職又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ
- 三 本則ニ於テ雇員トハ機關手、工手、作業手、電工手、雇員、看護人及調劑助手ヲ、備員トハ給仕、小使、炊夫、水夫、洗濯人及裁縫人ヲ云フ

第三條 在職年ノ計算ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ル雇員、備員相互轉職シタルトキハ前後ノ月數ヲ通算ス但シ備員ヨリ雇員ニ轉シタル場合ニ於テ雇員在職一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職月ノ計算ハ僱員ノ二月ヲ以テ僱員ノ月ト看做ス但シ在職十年以上ノ僱員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 看護人ニシテ直接看護ヲ命セラレ引續キ一年以上病室ニ勤務シタルトキハ一月ニ付半月ヲ加算ス但シ引續キ三十日以上病室ニ勤務セサルトキハ全ク勤務セサル月ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 退職給與金ハ僱員又ハ在職十年以上ノ僱員ニ在リテハ退職當時ノ月俸額又ハ日給三十日分ニ在職年ヲ乘シタル金額、在職十年未滿ノ僱員ニ在リテハ日給十五日分ニ相當スル金額ニ在職年ヲ乘シタル金額トス但シ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第六條 公務ニ由リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘズ退職シタル場合ハ前條ニ依リ算出シタル金額ノ二分ノ一以內ヲ増額ス但シ第四條ニ依リ加算セラレタルモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第七條 僱員死亡シタルトキハ退職給與金ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

僱員ニシテ公務ニ由リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキハ在職五年ニ滿タサル場合ト雖モ第五條後段ニ依リ算出シタル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

遺族並ニ其ノ順位ハ恩給法所定ノ例ニ依ル

附則

本令施行ニ際シ現ニ其ノ職ニ在ル者又ハ僱員ヨリ職員ニ轉職シ現ニ其ノ職ニ在ル者ニ對シテハ各其ノ就職シタル月ヨリ起算シ本令ニ依リ之ヲ支給ス

第四條ノ規定ハ大正十二年十月一日以降ノ事實ニ之ヲ適用ス

大正四年八月東京府訓令第八號第一區府縣立全生病院職員退職給與金支給規則ハ之ヲ廢止ス

第一區府縣立全生病院看護人看護婦講習所規則

第一條 本院看護人看護婦ノ講習ハ一般患者ノ看護法ヲ教授シ併セテ慈愛ノ精神ニ基キ品性ノ向上ニ努ム

第二條 生徒ハ本院看護人看護婦見習及雜役婦ヨリ院長之ヲ選考シテ入學セシム

第三條 生徒入學資格ハ高等小學校卒業者若クハ之ト同等以上ノ學力アル者ヨリ選拔ス

第四條 本所講習生徒ノ定員ハ二十名以內トス

第五條 修業年限ハ二ヶ年トシ各學年ハ四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル第一學年及第二學年ノ前半期ハ學說ヲ授ケ第二學年後半期ハ專ラ實地ヲ習熟セシム

第六條 學科ノ教授時數ハ一週二十二時間トシ時間割及各課擔任講師ハ別紙添付ノ通り

第七條 試驗ハ學說及實地ノ二トシ第二學年ノ終リニ行フ採點法ハ一科目十點ヲ滿點トシ毎科五點以上平均點六點以上ヲ得タルモノヲ及第トス

第八條 講習生病氣其ノ他ノ事故ニヨリ授業日數中缺席三分ノ一以上ニ及ブモノハ卒業セシメス

第九條 講習生ニシテ成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキ者又ハ生徒タル體面ヲ汚ス行爲アル者ハ卒業セシメス

第十條 講習卒業者ニハ左記様式ニ依リ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書	
氏名	_____
生年月日	_____
本院所定ノ看護學講習課程ヲ修了セシコトヲ證ス	_____
年月日	_____
院長名	_____
第 號	_____

法 令

第十一條 講習料ハ徵收セサルモノトス

第十二條 本講習所ノ講師ハ本院醫員、調劑員其ノ他ノ職員之ニ當ル

第十三條 學科目ヲ左ノ通り定ム

- 一 修身
- 二 國語
- 三 食餌法及營養學
- 四 解剖學及生理學
- 五 一般看護法及主要ナル各科疾患看護法
- 六 衛生學
- 七 傳染病學、細菌學、寄生蟲病學
- 八 消毒方法
- 九 繻帶學
- 一〇 醫療機械學
- 一一 救急處置法
- 一二 一般治療介補及外科的介補
- 一三 藥物學大意及調劑法
- 一四 英語

各學科教授時間制及各學科擔任講師

第一學年教授時間制		第二學年教授時間制	
曜時	時間	曜時	時間
月	午前八時……十時	月	午後一時……三時
火	解剖學 生理學	火	修身 國語
水	傳染病學	水	衛生學
木	細菌學 寄生蟲學	木	消毒方法
金	解剖學 生理學	金	醫療機械學
土	救急處置法	土	繃帶學
	一般看護法		
	救急處置法		

昭和十二年五月二十三日 印刷
 昭和十二年五月二十五日 發行

(非賣品)

發行者 第一區府縣立全生病院

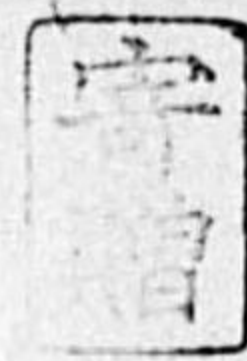
東京府北多摩郡東村山村南秋津一六五五番地

電話所澤一四二番

印刷者 高島幸三郎
 東京市京橋區西八丁堀三ノ二二

印刷所 高島印刷所
 東京市京橋區西八丁堀三ノ二二

電話京橋二七二三番



14905

終